

| | | | |
|----------|-----|---------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| スポーツの心理学 | | 佐藤 伊知子 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| AS1043 | 2 | SR (講義) | 1年以上 |



※2017年度に履修登録をし、2018年3月までに単位未修得の方は、2018年度よりレポート課題が2課題に変更され、科目コードも変更されています。単位未修得で論述式レポートに合格している方は、1単位めの客観式レポート課題に解答してください。

科目の概要

■科目の内容

「根性」って何だろう？大事な試合になればなるほど緊張するのはどうして？ベストなパフォーマンスを発揮するためにはどうしたら良い？など、スポーツ場面で感じる疑問を心理学として考えていく。

過緊張によりパフォーマンスにマイナスの影響が出ることを防ぐリラクゼーション法や集中力を鍛えるメンタルトレーニングなどを実践し、スポーツ場面以外でも活用できるメンタルコントロール手法を身につける。社会心理学的要素のチーム理論やリーダーシップ、教育心理学的要素を含むスポーツ指導法などに関しても社会生活の中で応用できるような学びを目指している。

名指導者の独特の指導法やトップアスリートの思考を例に挙げ、それらがどのような意味や効果を持つのか解説する。

【教員の実務経験による指導内容】

バレーボール日本代表選手として五輪などの国際大会に出場した経験をいかし、トップアスリートが直面する心理的諸問題やメンタルマネジメントについて実例を挙げながら講義する。

■到達目標

- 1) スポーツに関する諸事象について心理学的に分析しスポーツの技術と競技力向上に必要な心理学的要素を論じることができる。
- 2) リラクゼーション法を身につけ日常でも実践できるようになる。
- 3) 指導者（リーダー）に必要な要素を理解し社会で活かす方法を考え出すことができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 70%+スクーリング評価 30%

■教科書・参考図書

【教科書】

徳永幹雄編『教養としてのスポーツ心理学』大修館書店、2005年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

【参考図書】

日本体育協会『公認スポーツ指導者養成テキスト』

日本体育協会『21世紀のスポーツ指導者～望ましいスポーツ指導者とは～』

いずれも市販されていませんが、日本体育協会のHPで閲覧もしくは購入可能です。

スクーリング

▶オンデマンドのみ

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|------------------|--------------------------|
| 1 | 「根性」から「心理的競技能力」へ | スポーツに必要な「心の技術」とは |
| 2 | スポーツ不安① | あがりとは何か、どんな時に起きるのか |
| 3 | スポーツ不安② | 覚醒水準とパフォーマンスとの関係 |
| 4 | スポーツ不安を軽減させる手法 | リラクゼーション・イメージトレーニング |
| 5 | チーム（集団）チームワークとは | 集団を構成する要素・成立までのプロセス |
| 6 | リーダーシップとは | リーダー・フォロワーの役割・PMリーダーシップ論 |
| 7 | スポーツ指導法 | モチベーションを高める指導法 |
| 8 | 質疑応答 | |
| 9 | スクーリング試験 | |

■講義の進め方

テキストやパワーポイントなどをもとに板書をしながら進めます。リラクゼーションやメンタルトレーニングなどは実践も行います。

■スクーリング評価基準

試験では主に授業で学んだ用語の理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて自分なりに学びたいことを考えてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の第2部「競技スポーツの心理学」を中心に復習し、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 8 のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|-------------------------|---|--|
| 1 | 競技者に必要な心理的スキルとは（第2章） | 心理的スキルとは？心理的スキルとパフォーマンスの関係 キーワード：精神力・心理的競技能力 | まずは「精神力」「根性」という漠然とした考え方を心理学的に、科学的にとらえる重要性を理解しましょう。 |
| 2 | よい緊張感はどのように作られるか（第4章） | よい緊張感とはどんなことを指すのだろうか。悪い緊張感とは？ キーワード：緊張度と実力発揮の関係・リラクセーション | 緊張はすべて「悪」ではありません。緊張感は無さすぎてもありすぎてもパフォーマンスに悪影響を及ぼしますが、その間に「良い緊張」があるということを学びましょう。 |
| 3 | 集中力はどのようにして高めるか（第5章） | 集中力とは？集中力を高める練習・妨害されない練習・持続する練習 キーワード：注意を一点に集める | 集中力も心理的スキルの一つです。練習で向上させることが可能です。注意力を必要とところに向けてためにはどのような練習法があるのでしょうか。 |
| 4 | 自信を高めるには（第6章） | 技術に関する自信、体力に関する自信、心理面に関する自信、それぞれにどのようなアプローチができるか？ キーワード：自己効力感 | 自信というものも心理的競技能力として欠かさないスキルです。ゆるぎない自信を持つことができればパフォーマンスにも好影響を及ぼします。 |
| 5 | チーム作りに必要な心理的要因①（第9章） | チームとは？チーム作りのプロセスとは？ キーワード：チームビルディング | 人が集まればすぐにチームができるというわけではありません。チームとはどのような機能が必要か、どのような過程を経て出来るのか学んでください。 |
| 6 | チーム作りに必要な心理的要因②（第9章） | コミュニケーションスキルの重要性とは？協調性と個性化の育成 キーワード：言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション PM リーダーシップ論 | チームをより強固なものにするためにコミュニケーション力や役割分化は不可欠です。どのようにスキルアップすることができるか学びましょう。 |
| 7 | スポーツ技術獲得の心理的課題は何か（第11章） | 運動学習の理論、合理的な技術獲得の練習法 キーワード：スキーマ理論・ゲームライクプラクティス | 有効な効果が得られない練習をいくら続けても上達はしません。理論に裏打ちされた指導を行うことにより合理的に強化することができます。指導者に必要な視点を学びましょう。 |
| 8 | スポーツ心理学の基礎知識（附章） | スポーツ心理学に必要な基礎知識とは キーワード：動機付け理論・コーチング | スポーツ指導者側の視点として、選手のやる気を刺激する方法やストレスに対する認知の再構成などの働きかけによるストレスマネジメントは不可欠です。様々な手法について学びましょう。 |

■レポート課題

（2 単位めレポートはスクーリング合格後に提出してください）

| | |
|-------|---|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | あなたがスポーツ指導者になった場合、どのようにチームを作り、どのような手法を用いてチーム強化を図りますか？その根拠も含め記述してください。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年度よりレポート課題が2課題に変更されました。単位未修得で2017年度以前に論述式レポートに合格している方は、1単位めの客観式レポート課題に解答してください。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

教科書をよく読むこと。特に第2部の「競技スポーツの心理学」には、チームが持つべき機能やチームビルディング(第9章) 競技者に必要な心理的スキル(第2章) メンタルトレーニングやリラクゼーション(第3章) 作戦のトレーニング法(第7章) などについて詳しく書かれています。また、第10章の実践例も参考になりますね。それらを理解した上でレポートテーマについて考えていきましょう。

まずは自分が指導するチームの種目とレベル、年齢層を自由に設定してください。設定するのが難しい場合は下記の例に挙げられたものから選んでいただいても結構です。

<例>

- ・中学生の野球部・男子生徒のみ 25名在籍・県大会準優勝レベル
- ・スポーツ少年団のバレーボールクラブ・小学3年生～6年生男女 20名在籍・全国大会出場レベル
- ・ママさん卓球サークル・20代～50代までの女性 15名在籍・半数が初心者・体力維持増進目的
- ・サッカー日本代表チーム・10代～30代までの男性 25名在籍・全員プロ選手・世界ランク 45位

自分が設定した指導対象チームの特性をしっかりと見極め目標を設定してください。その目標を達成するために必要と思われる役割分化や人材配置などについて考えましょう。また、チーム構成員のモチベーションやチームワークを高めるためにどのようなことを行うのか、心理的競技能力を高めるため何をするか、など具体例を挙げながら述べてください。

■レポート評価基準

- ①チームの目標が的確に設定されているか。また、目標達成のための役割分化・人材配置などがマッチしているか
- ②チームや選手に対して行う指導が経験や感覚から提案するのではなく、科学的、心理学的な根拠に基づくものであるかの2点を重視します。「スポーツの心理学」のレポートですのでフィジカル面やテクニカル面の向上よりもメンタル面の強化・向上を主に考えてください。

| | | | |
|--------|-----|------------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 福祉心理学 | | 渡部 純夫 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| CC2068 | 2 | RorSR (講義) | 1年以上 |



科目の概要

■科目の内容

人間を取り巻き、目まぐるしく変化する社会の中で、私たちは自己形成を目指しながら生きていくために多種多様な問題と取り組まなければなりません。この世に生を受けた瞬間から死を迎えるまで、ライフサイクルを通して抱えなければならない問題や課題は山のようにあります。「福祉心理学」は、このような時代を生き抜く人々の、一人一人が求める「幸せの追求」をサポートし、「生活の質」の向上のために貢献する必要不可欠な学問ということができます。一人一人の生命と生活を守るための取り組みを行いながら、社会全体にも働きかけていくことが「福祉心理学」には求められます。一人一人の心理面を心理アセスメントから深く理解し、日常生活に散見するたくさんの問題に実践的見地からの分析と対応を行うことが求められます。人間生活の基本にかかわる、「福祉心理学」をしっかりと学びましょう。

【教員等の実務経験による指導内容】

心理的支援の経験をいかし、事例をもとに「心理学」の理論や手法を身につけ人々の福祉に対処できる人財を育成します。

■到達目標

- 1) 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解し、説明できる。
- 2) 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解し、説明できる。
- 3) 日常生活と心の健康との関係について理解し、説明できる。
- 4) 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解し、説明できる。
- 5) 公認心理師に関する内容について理解し、説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 60%+スクーリング評価 or 科目修了試験 40%

■教科書・参考図書

【教科書】

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学 改訂版』八千代出版、2019年（改訂版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2019年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

【参考図書】

- 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編『福祉心理学の世界 人の成長を辿って』ナカニシヤ出版、2018年
佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行 編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年
今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい、2004年
岡田明著『福祉心理学入門』学芸図書、1995年
水島恵一編著『人間科学入門』有斐閣双書、1976年
村上陽一郎著『生と死への眼差し』青土社、1993年
藤森和美編『子どものトラウマと心のケア』誠信書房、1999年
岩城宏之著『いじめの風景』朝日新聞社、1996年
村瀬嘉代子著『子どもと大人の心の掛け橋』金剛出版、1995年
佐藤泰正・山根律子編著『福祉心理学』学芸図書、1998年（改訂版、2005年）
白樫三四郎編著『現代心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
小林重雄監修『福祉臨床心理学』コレール社、2002年
安藤治著『福祉心理学のこころみ』ミネルヴァ書房、2003年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

人の心の基本的な仕組みと機能、環境との相互作用の中で生じる心理的反応、および成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、および日常生活と心の健康との関係について理解するため、「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法、福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び支援について学びます。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|---------------------------|---|
| 1 | 心理学の視点 | 心理学の歴史と対象、心理学の未来、心を探求する方法の発展 |
| 2 | 人の心の基本的仕組みと機能① | 心理学における諸理論と形成過程、心の生物学的基盤、感情・動機づけ・欲求、感覚・知覚 |
| 3 | 人の心の基本的仕組みと機能② | 学習・行動、認知 |
| 4 | 人の心の基本的仕組みと機能③ | 個人差、人と環境 |
| 5 | 人の心の発達過程 | 生涯発達、心の発達の基盤、生きがいと問題行動への対応 |
| 6 | 日常生活と心の健康 | 生活環境と心の健康、心の不応、健康生成論、喪失体験 |
| 7 | 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本① | 心理アセスメント、心理的支援の基本的技法 |
| 8 | 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本② | 心理アセスメントとその技法、心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要、心理の専門職、まとめ |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

一人ひとりの幸せを考えていくために、心理学がどのように貢献できるか、具体例をあげながら講義をしていきます。その中で理論と実践がどう融合していくのかについても考えていきます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込不可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を読み、人の一生と心理学がどのように結びつきを持つのかについてまとめてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

自分の身近な福祉の問題を取り上げ、「福祉心理学」の理論や技法から、どのような援助が可能かまとめてみてください。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容 | 学びのポイント |
|----|---------------------------|---|--|
| 1 | 心理学の歴史から未来を考える① | 心の学の誕生とその歩み キーワード：行動主義、ゲシュタルト、精神分析 | 心理学の歴史を振り返ることにより、心理学がどのような発展を遂げてきたかを学ぶ。 |
| 2 | 心理学の歴史から未来を考える② | 現代の心理学から未来へ キーワード：環境・社会心理学、発達心理学、臨床心理学、倫理 | 現代の心理学とその課題を理解することにより、未来における心理学の可能性を考える。 |
| 3 | 人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか① | 「知る」ことの仕組みとその応用 キーワード：知覚、認知 | 「知る」という心理機能と行動の基本的メカニズムについて学び、日常生活への活用について考える。 |
| 4 | 人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか② | 「学び、覚える」ことの仕組みとその応用 キーワード：学習、条件づけ、行動主義、記憶 | 社会・文化的な側面の理解についての結びつきを踏まえ、「学習、記憶」という心理機能と行動のメカニズムについて学ぶ。 |
| 5 | 人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか③ | 「考え行う」ことの仕組みとその応用 キーワード：知能、問題解決 | 「知能」とは何か、「問題を解決する」時の心の働きに着目し、「思考」のメカニズムについて学ぶ。 |
| 6 | 心の成り立ちと個性の形成を考える① | 「行動」から見た心と個性 キーワード：動機づけ、感情、社会的認知 | 人間の「行動」を、心理学的に理解していくための諸理論について学ぶ。 |
| 7 | 心の成り立ちと個性の形成を考える② | 「パーソナリティ」から見た心と個性 キーワード：パーソナリティ、自我・自己、自己実現 | 人を特徴づける「パーソナリティ」の様々な考え方について学ぶ。 |
| 8 | 心の成り立ちと個性の形成を考える③ | 「人間性」から見た心と個性 キーワード：人間性心理学、感性、コミュニケーション、適応 | 「人間性心理学」の各理論と「コミュニケーション」の基礎概念についてを学ぶ。 |

| | | | |
|----|------------------|--|--|
| 9 | ともに生きるための心理学の役割① | 生活環境作りと心理学の役割 キーワード：父性原理・母性原理、ウェルビーイング、文化心理学、パーソナル・スペース | 心理学的アプローチに基づいて、人と人、家族、社会・文化、環境との関連性を学び、心理学の役割を考える。 |
| 10 | ともに生きるための心理学の役割② | 人の健康と心理学の役割 キーワード：ストレス、予防 | 健康と「ストレス」の関連性について、様々な生活場面における問題と、心理的側面からの対処について考える。 |
| 11 | ともに生きるための心理学の役割③ | 心理臨床の現場から キーワード：DSM- IV、ICD-10、アセスメント、心理療法、福祉と心理 | 単純に因果関係を特定できない「心の問題」を学び、「アセスメント」「心理療法」について考える。 |
| 12 | 「人生」を生きていくということ① | 生涯発達 キーワード：変化、積み重ね、可塑性 | 「生涯発達心理学」という視点から「発達」についての考え方を学ぶ。 |
| 13 | 「人生」を生きていくということ② | 障害をもって生きるということ キーワード：WHO、受容 | 「障害」とは何かを正確に理解する。「障害」の意味・援助のあり方を考える。 |
| 14 | 「人生」を生きていくということ③ | 思春期を生きる キーワード：同一性、自我、モラトリアム | 「思春期の変化」を、「身体的変化」と「心理的变化」に分けて考える。また、その過程で心理学がどのように貢献できるかを考察する。 |
| 15 | 「人生」を生きていくということ④ | 老年期を生きる キーワード：個人差、パーソナリティ、生きがい、死、幸福、福祉 | 加齢が及ぼす身体的・心理的变化を学び、心理学・社会福祉学の両面からのアプローチを考える。 |

■レポート課題

【2018年度以降入学者】

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

【2017年度以前入学者】

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | 福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。 |
| 2 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「福祉心理学」では、深い人間理解が必要になります。人間は発達を通していろいろなものを身に付け、自己形成の課題に取り組んでいきます。課題に直面し不適応を起こすこともあります。そのような人々に対して援助を行うにあたっては、一般的な発達においての特徴と課題をしっかりと押さえておくことが必要になります。しかし、人間には個性や個人差があります。個としての見方やとらえ方も同時に必要になります。

この「福祉心理学」では、まず心理学の視点から人間理解を深めていくことを行います。その上で、何らかの援助を必要としている人に対して、どのような援助方法があるのか、ひとりひとりのニーズにどのように応えていけばよいかについて、理念と実践から考えていくことにしたいと思います。

「福祉心理学」を考えると、「社会福祉」と「心理学」の二面性の問題と向き合うこととなりますが、ここでは「心理学」を「福祉」にどう活用するかという観点から考えていただきたいと思います。

【客観式課題アドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【論述式課題アドバイス】

- (1) テキスト『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』の第1部「心理学の歴史から未来を考える」から第3部「心の成り立ちと個性の形成を考える」までをよく読み、人間の心理的活動がどうなっているかを理解するための努力をしてください。
- (2) 次に、参考図書にあたり人間理解のための方法や視点の共通点と違いについてまとめ、考えを膨らませてください。あなた自身が今まで行ってきた理解の仕方についてもふりかえりを行ってください。
- (3) それらを、分析・考察しながら自分なりにまとめていくことにより、深い人間理解にもとづいたレポートができあがると思います。
- (4) 人間のすべての行動面に「心理学」は関わりをもちますから、日々の生活の中で気になる人間の行動をとりあげ、「心理学」とつないで学んでみるとよいと思います。

| |
|--------|
| 科目修了試験 |
|--------|

■評価基準

- 1) 人生のライフステージの課題を理解しているか。
- 2) 福祉心理学の視点が理解されているか。
- 3) テキスト以外の文献で発展的学習をしているか。
- 4) 自分の考えをまとめる力があるか。
- 5) 専門的内容をどれくらい理解しているか。

| | | | |
|---------------|-----|------------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 地域福祉と包括的支援体制A | | 大石 剛史 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| CC3097 | 2 | RorSR (講義) | 2年以上 |



※会場によりスクーリング担当が異なります（仙台・オンデマンド：大石剛史先生、東京：柴田邦昭先生）。

科目の概要

■科目の内容

これまでの歴史的経緯を踏まえ、地域共生社会を含むケアリングコミュニティの構築に向けた地域住民等や地方公共団体並びに関係機関の役割を理解し、人々の繋がりや地域社会の機能力が脆弱化してきていると指摘されている今日、地域福祉実践の理論と実際を理解し、具体的に実践するための手法を学びます。

具体的には、各地域における様々な実践事例や、エピソードなどを交えて、地域福祉の基本的な考え方と、その考え方が具体的な実践でどのように活かされているのか講義を通じて紹介します。

これらの事例等を通じて、地域福祉の実践によってどのような効果や成果が望まれているのか等に関し、地域住民が取り組む意義と、地域福祉実践が絶えず動的に展開される必要性について理解を深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

自治体、社会福祉協議会等への地域福祉の進め方に関するスーパーバイズ経験等を活かして、小地域福祉活動の進め方、地域共生社会に向けた包括的支援体制の構築方法、地域福祉計画の策定プロセス等、具体的な事例等を交えて解説する。

■到達目標

- 1) 地域福祉は、地域住民等が推進主体であることを説明できる。
- 2) 地域福祉は、地域共生社会の実現に向けた実践であることを説明できる。
- 3) 地域福祉実践のために、包括的な支援体制を含む人的社会的資源のシステム形成の必要性を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%+スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「地域福祉と包括支援体制B」と共通）

都築光一著『福祉ライブラリ現代の地域福祉（第2版）』建帛社、2022年

（最近の教科書変更時期）2023年4月

（スクーリング時の教科書）【各会場共通】上記教科書は必ず持参してください。旧教科書を所持している場合でも受講に支障がないよう資料などを配付します。

【参考図書】

- 1) 大石剛史著『ケアリングコミュニティの理論』学文社、2024年
- 2) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、2022年
- 3) 公益社団法人日本社会福祉士会『地域共生社会に向けたソーシャルワーク：社会福祉士による実践事例から』中央法規、2018年
- 4) 日本地域福祉研究所（監修）、中島修、菱沼幹男（編集）『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2016年

スクーリング

▶仙台・オンデマンド開講分 大石 剛史

■スクーリングで学んでほしいこと

地域福祉の定義や概念を理解するとともに、地域福祉の歴史的な経過や地域福祉の基本について学びます。地域福祉の主体は、あくまでも住民主体です。地域住民が主体となって地域共生社会づくりを進めていけるように支援するための基本的な考え方と、具体的な実践手法について事例を交えて解説します。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|--------------|-------------------------|
| 1 | 地域福祉の概念と理念 | 住民自治・福祉コミュニティ |
| 2 | 地域福祉とは | 概念・定義 |
| 3 | 地域福祉の原理と実践 | 住民主体、地域性、人的社会的資源 |
| 4 | 地域福祉の歴史（欧米編） | デンマーク、イギリス、アメリカ |
| 5 | 地域福祉の歴史（日本編） | 日本における地域福祉のあゆみ |
| 6 | 社会福祉協議会 | 社会福祉協議会の概要、歴史、現状、課題 |
| 7 | 福祉行政 | 国と市町村の福祉行政の仕組み、特別地方公共団体 |
| 8 | 福祉財政 | 福祉関係の一般会計、特別会計、寄付金その他 |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

教科書をわかりやすくパワーポイントにまとめた資料を中心に進めます。

■スクーリング評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（教科書および自筆のノート、配付資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章・第2章・第3章は読んできてください。

▶東京開講分 柴田 邦昭

■スクーリングで学んでほしいこと

地域福祉の定義や概念を理解するとともに、地域福祉の歴史的な経過や地域福祉の基本について学びます。地域福祉の主体は、あくまでも住民主体です。地域住民が主体となって福祉コミュニティづくりを進めていけるように支援するための基本的な考え方と、具体的な実践手法について事例を交えて解説します。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|--------------|-------------------------|
| 1 | 地域福祉の概念と理念 | 住民自治・福祉コミュニティ |
| 2 | 地域福祉とは | 概念・定義 |
| 3 | 地域福祉の原理と実践 | 住民主体、地域性、人的社会的資源 |
| 4 | 地域福祉の歴史（欧米編） | デンマーク、イギリス、アメリカ |
| 5 | 地域福祉の歴史（日本編） | 日本における地域福祉のあゆみ |
| 6 | 社会福祉協議会 | 社会福祉協議会の概要、歴史、現状、課題 |
| 7 | 福祉行政 | 国と市町村の福祉行政の仕組み、特別地方公共団体 |
| 8 | 福祉財政 | 福祉関係の一般会計、特別会計、寄付金その他 |
| 9 | スクーリング試験 | |

■講義の進め方

教科書をわかりやすくパワーポイント資料にまとめ、それを配付し講義を進めます。

■スクーリング評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（教科書および自筆のノート、配布資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章・第2章・第3章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|-----------------|-------------------------------|--|
| 1 | 地域福祉を学ぶ（序章） | 地域福祉を学ぶことの現代的意義について理解する | ・今地域福祉を学ぶ意義の理解 ・地域福祉の具体的な展開の意味を理解する |
| 2 | 地域福祉の理念（第1章） | 地域福祉の理念としての住民自治と福祉コミュニティを理解する | ・民主主義の基本としての住民自治 ・社会福祉のコミュニティ論としての福祉コミュニティ |
| 3 | 地域福祉とは（第1章） | 地域福祉の定義を理解する | 地域福祉とは、地域住民等が、人的社会的資源を活用して、福祉コミュニティ構築を目指す、実践をいう。 |
| 4 | 地域福祉の原理と実践（第1章） | ・住民主体・地域性・人的社会的資源の意味を理解する | 以下の3点について理解する ・地域福祉における住民の主体性の原理 ・内発的発展と地域性の原理 ・人的社会的資源のシステム形成の原理 |

| | | | |
|----|------------------------------|--|--|
| 5 | 外国における地域福祉のあゆみ (第2章) | <ul style="list-style-type: none"> ・デンマーク ・イギリス ・アメリカ | <ul style="list-style-type: none"> ・実践理念としてのノーマライゼーション ・地域福祉の精度のあゆみ ・ソーシャルワーク理論の発展 |
| 6 | 日本における地域福祉のあゆみ 1 (第2章) | 第二次世界大戦までの日本の地域福祉のあゆみを振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ・幕末まで………国家としての取り組みのない時代 ・明治～大正期…地域福祉の萌芽期 ・大正～終戦期…停滞期 |
| 7 | 日本における地域福祉のあゆみ 2 (第2章) | 戦後の制度構築期からこんにちまでのあゆみを振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後～2000年…地域福祉模索期 ・2000年～………地域福祉形成期 |
| 8 | 地域社会と最近の動向 (第2章) | 日常生活課題と地域共生社会について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・多様化する生活問題 ・地域共生社会の実現 |
| 9 | 社会福祉協議会 1 (第3章) | 社会福祉協議会の存在意義とこれまでのあゆみを理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・設立の背景と機能 ・わが国における社会福祉協議会の歴史 |
| 10 | 社会福祉協議会 2 (第3章) | 社会福祉協議会の法的規定と市区町村社会福祉協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の法的根拠（社会福祉法） ・市区町村社会福祉協議会 |
| 11 | 社会福祉協議会 3 (第3章) | 都道府県および全国社会福祉協議会と今日の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県社会福祉協議会 ・全国社会福祉協議会 ・社会福祉協議会の今日の課題 |
| 12 | 社会福祉行政 1 (第5章) | 福祉行財政の原則と原則 | <p>社会福祉法と地方自治法の2つの法令から理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉行政と財政 ・行政運営の原則 |
| 13 | 社会福祉行政 2 (第5章) | 福祉行財政のあゆみと構造 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後における福祉行財政のあゆみ ・福祉行財政の構造 |
| 14 | 社会福祉行政 3 (第5章) | 福祉行政機関と組織 | <ul style="list-style-type: none"> ・国・都道府県・市町村における福祉行政機関 ・多様な行政機関の組織 |
| 15 | 社会福祉行政 3 (第5章) | 行政の展開過程と財政 | <ul style="list-style-type: none"> ・行政実務の類型 ・行政実務の意思決定過程 ・財政の仕組み |

■レポート課題

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 地域生活課題の多様化をふまえ、求められるケアリングコミュニティ（地域共生社会）のあり方とその構築方法について、学んだ地域福祉の概念や理論を適切に用いて論述しなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

現代の地域生活課題、地域共生社会のあり方、地域福祉に関する諸理論、福祉行財政の枠組み等に関し、テキストをよく読んで確認して解答してください。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

複雑で多様な現代の地域生活課題をふまえ、分野横断的かつ地域住民の力も借りながらどのようにケアリングコミュニティ（地域共生社会）を構築するか、その構築のプロセスについて、学んだ地域福祉の概念・理論を適宜用いると良いでしょう。

| |
|--------|
| 科目修了試験 |
|--------|

■評価基準

テキスト・文献や法律等からの引用だけではなく、学んだ知識を踏まえた上でのご自身の考察が重要です。的確な内容の理解に基づいたうえで、独自性のある考察が行われていることが評価ポイントになります。

| | | | |
|---------------|--|------------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 地域福祉と包括的支援体制B | | 大石 剛史 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| CC3098 | 2 | RorSR (講義) | 2年以上 |
| 履修登録条件 | 「地域福祉と包括支援体制A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。 | | |



科目の概要

■科目の内容

これまでの歴史的経緯を踏まえ、地域共生社会を含むケアリングコミュニティの構築に向けた地域住民等や地方公共団体並びに関係機関の役割を理解し、人々の繋がりや地域社会の機能力が脆弱化してきていると指摘されている今日、地域福祉実践の理論と実際を理解し、具体的に実践するための手法を学びます。

具体的には、各地域における様々な実践事例や、エピソードなどを交えて、地域福祉の基本的な考え方と、その考え方が具体的な実践でどのように活かされているのか講義を通じて紹介します。

これらの事例等を通じて、地域福祉の実践によってどのような効果や成果が望まれているのか等に関し、地域住民が取り組む意義と、地域福祉実践が絶えず動的に展開される必要性について理解を深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

自治体、社会福祉協議会等への地域福祉の進め方に関するスーパーバイズ経験等を活かして、小地域福祉活動の進め方、地域共生社会に向けた包括的支援体制の構築方法、地域福祉計画の策定プロセス等、具体的な事例等を交えて解説する。

■到達目標

- 1) 地域福祉は、地域住民等が推進主体であることを説明できる。
- 2) 地域福祉は、地域共生社会の実現に向けた実践であることを説明できる。
- 3) 地域福祉実践のために、包括的な支援体制を含む人的社会的資源のシステム形成の必要性を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%+スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「地域福祉と包括支援体制A」と共通）

都築光一著『福祉ライブラリ現代の地域福祉（第2版）』建帛社、2022年

※「地域福祉と包括支援体制A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（最近の教科書変更時期）2023年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。旧教科書を所持している場合でも受講に支障がないよう資料などを配付します。

【参考図書】

- 1) 大石剛史著『ケアリングコミュニティの理論』学文社、2024年
- 2) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、2022年
- 3) 公益社団法人日本社会福祉士会『地域共生社会に向けたソーシャルワーク：社会福祉士による実践事例から』中央法規、2018年
- 4) 日本地域福祉研究所(監修)、中島修、菱沼幹男(編集)『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2016年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

地域福祉の展開方法として、地域福祉計画や福祉教育、包括的支援体制の構築のあり方、それらを用いて地域共生社会をどのように実現していくかを学んでいただきたいと思います。また災害時における福祉のあり方も学びます。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|--------------------|-----------------------------|
| 1 | 地域社会の概念と理論 | 地域社会の概念と理論、地域社会の変化について学ぶ |
| 2 | 福祉計画の意義・目的と展開 | 福祉行財政と福祉計画や福祉計画の種類や歴史を学ぶ |
| 3 | 福祉計画の策定過程と方法・評価 | 計画の課題把握や実施に向けた合意形成・評価について学ぶ |
| 4 | 包括的支援体制と地域包括ケアシステム | 各種制度による対応システムについて学ぶ |
| 5 | 地域共生社会の実現に向けた多機関協働 | 多機関協働と多職種連携について学ぶ |
| 6 | 非常時や災害時における法制度 | 災害と地域福祉について法制度等を通じて学ぶ |
| 7 | 非常時や災害時における総合的な支援 | 災害時の福祉的支援について事例を通じて学ぶ |
| 8 | 地域福祉と包括的支援体制の課題と展望 | 地域共生社会の構築・福祉ガバナンスについて学ぶ |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

教科書を用いながら、配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います(教科書および自筆のノートのみ持込可)。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章・第2章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|-------------------|--|--|
| 1 | 地域共生社会実現の必要性（第2章） | 今日の地域社会の動向を踏まえ、地域共生社会への取組みの必要性を理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会の必要性 ・脆弱化した地域社会 ・都市における高齢化の進行 |
| 2 | 民生委員 1 | 民生委員制度の概要と歴史について理解を深める | <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員制度の概要 ・民生委員制度の歴史 ・民生委員の職務内容 |
| 3 | 民生委員 2 | 民生委員活動の現状と課題を理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の位置づけと働き ・民生委員制度の課題 |
| 4 | 地域福祉関係団体 | 地域福祉活動に関係する様々な団体の種類や役割について理解する各種団体のネットワーク形成のあり方や考え方を理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・地域関係団体（自治会・町内会等） ・当事者団体（老人クラブ・子ども会・各種障害者団体など） ・職能団体やサービス提供者団体 ・企業やJA などその他 |
| 5 | 福祉教育 1 | 福祉教育の理念・目的・概念の理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育の理念 ・福祉教育の概念と各種理論 |
| 6 | 福祉教育 2 | 福祉教育の取組みの歴史と具体的な事例 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育のあゆみ ・福祉教育の取組み事例（地域と学校） |
| 7 | 地域福祉計画 1 | 地域福祉計画の概要と目的・法的根拠 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画の目的と概要 ・地域福祉計画の法的根拠 |
| 8 | 地域福祉計画 2 | 地域福祉計画の策定プロセスと用いられる調査・統計 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画の策定プロセス ・計画策定に活用される調査や統計と活用上の留意点 |
| 9 | 地域福祉活動計画 | 行政と違った社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画の意義と地域福祉計画との関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係 ・地域福祉活動計画策定の必要性 ・地域福祉活動計画の特長 |
| 10 | 包括的支援体制 1 | 福祉専門職による地域における様々な活動について理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・包括的支援体制と重層的支援体制 ・相談支援の特長と具体的な事例 |
| 11 | 包括的支援体制 2 | 就労、学習など、様々な機会に参加することができるよう支援する参加支援 | <ul style="list-style-type: none"> ①多様な社会参加・就労の支援 ②住まいの確保のための支援 ③権利擁護のための支援 ④社会との接点の確保・包摂の支援 |
| 12 | 包括的支援体制 3 | 地域活動や地域づくりに関する支援のあり方を理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・「地域」そのものの働きとしての「場」の機能 ・「地域」づくりへの取組としての「地域づくりをコーディネートする機能」 ・住民自身が主体的に取り組むよう支援する |
| 13 | 災害時福祉支援体制 1 | 災害時におけるフラジリティとヴァルネラビリティの理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害は社会事象であることと様々な脆弱性の克服が求められていること ・様々な災害法制の理解 |

| | | | |
|----|-------------|-------------------------------|---|
| 14 | 災害時福祉支援体制 2 | レジリエンスとしての災害福祉の取り組みの理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルな取り組み ・インフォーマルな取り組み ・災害福祉としての当事者を包摂した取り組み |
| 15 | 今後の地域福祉の方向性 | 現代社会の様々な問題と解決に向けた地域福祉の取り組みの方向 | 現代社会の様々な問題について事例を紹介する様々な事例の解決に向けた地域福祉の取り組み事例を通じて、今後の実践の方向性を探る |

■レポート課題

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を含む包括的支援体制を、「多機関協働」「福祉教育」「地域福祉計画」などを活用してどう構築するか、あなたの考えを論じなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

計画策定プロセスと重層的支援体制の概要を把握し、機関や人的資源の果たすべき役割と、計画の目標をしっかりと記載することが重要です。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

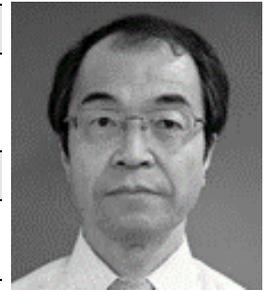
包括的支援体制の全体像をよく理解したうえで、多機関協働による支援体制づくり、住民主体の地域福祉活動の展開を促す福祉教育、地域福祉を計画的に推進する地域福祉計画など、学んだ地域福祉の展開方法に関する知見を活かしながら、総合的に論じてください。具体的な事例なども適宜用いると良いでしょう。

科目修了試験

■評価基準

テキスト・文献や法律等からの引用だけではなく、学んだ知識を踏まえた上でのご自身の考察が重要です。的確な内容の理解に基づいたうえで、独自性のある考察が行われていることが評価ポイントになります。

| 科目名 | | 担当教員 | |
|--------|-----|------------|------|
| 社会保障論Ⅰ | | 阿部 裕二 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| CD4088 | 2 | RorSR (講義) | 3年以上 |



科目の概要

■科目の内容

日本の社会保障制度は、進展している少子高齢化のなかで構造的な転換期を迎えており、「社会保障革命」というべき各種の見直しが行われてきました。近年においても年金制度や医療（保険）制度などが改革の道を歩んでいます。まさに新しい生活保障システムが求められている時代ともいえます。とはいえ、「構造的な転換期」だからこそ原点に立ち返り、「社会保障とは何か」の古典的な議論も必要であると思われます。

そこで、社会保障論Ⅰでは、少子高齢化や労働環境等の変化を踏まえつつ、社会保障の枠組み（概念と対象）と民間保険との関係性の理解に努めます。また、社会保障を支える理念と財政の内容とそれぞれが抱える課題についても考察します。そして、社会保障の歴史をみる中で、現代社会における社会保障制度の役割と取り組む課題について把握します。

【教員等の実務経験による指導内容】

市民向けの講座において、年金保険や医療保険の改正内容を解説してきた。また、介護保険制度創設時には、市民のみならず行政職員に対しても解説もしてきた。現在は、ある都市においては介護保険運営協議会に20年にわたり関わってきた。このような経験を活かし、介護保険の現状と諸問題について講義をする。

■到達目標

- 1) 生活の変容を説明できる。
- 2) 社会保障制度の枠組みと現代社会において取り組むべき課題を説明できる。
- 3) 社会保障制度の理念や財政の内容と問題点を説明できる。
- 4) 民間保険の重要性と公的保険制度の関係性を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%+スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「社会保障論Ⅱ」と共通）

福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ 12 社会保障（第2版）』弘文堂、2025年（最近の教科書変更時期）2025年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心に講義を行います。

【参考図書】

- 1) 阿部裕二監修『すぐに役立つ！ケアマネ、生活相談員、生活支援員のための社会保障制度がわかる本』ナツメ社、2021年
- 2) 椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（最新版）』有斐閣アルマ

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

本講義のテーマは「社会保障の考え方と仕組みを理解し、自分なりの『社会保障観』を構築しよう」です。日本の社会保障は、少子・高齢化をはじめとするさまざまな環境の変化のなかで、構造的転換期を迎えています。その際、「私たちの生き方（価値観の転換）」も同時に問われています。そこで、講義ではこのような問題意識の下、社会保障の考え方や成立過程を考察しつつ、日本の社会保障の枠組みと役割等について考えてみたいと思います。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|----------------------------|--|
| 1 | 私たちの生活の変容 | 少子高齢化、人口減少などの人口動態、家族形態、経済、労働環境等について学びます。 |
| 2 | 社会保障の枠組みと範囲 | 定義と範囲および役割について、歴史的背景を含めて学びます。 |
| 3 | 社会保障を支える理念 | ナショナル・ミニマム、オブティマム、普遍主義と選別主義、ノーマライゼーションなどについて |
| 4 | 社会保障制度の展開過程 | イギリスを中心とした欧米の歴史、日本の歴史について、それぞれ学びます。 |
| 5 | 社会保険と社会扶助 | 社会保障の中核にある社会保険と社会扶助の内容と関係性および機能について学びます。 |
| 6 | 社会保障と財政 | 国と地方、社会保障給付費と社会支出の関係、国民負担率、経済と社会保障の相互作用等について |
| 7 | 公的保険制度と民間保険制度 | 自助の一つの形態としての民間保険の仕組みと社会保険との関係などについて学びます。 |
| 8 | 現代社会における社会保障制度の役割と取り組むべき課題 | 社会保障・税一体改革、一億総活躍社会などについて整理しつつ、自らの社会保障観について考えます（まとめ）。 |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

スクーリング時には、作成した『理解しやすい社会保障論Ⅰ講義資料集』を配付して、この資料集を中心にして講義を行います。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング評価基準

スクーリング試験のみ（100%）（持込不可）で評価します（稀ですが受講態度を加味する場合があります）。試験では2題を選択して解答（記述式）していただきます。なお、試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで

学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って皆さん自身の見解をどれだけ論述できるかについて問います。詳しくはスクーリング時に示します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「スクーリング講義内容」（8項目）の項目に該当する部分を教科書に沿ってある程度読んで出席してください。つまり、少ない講義回数の中で、少しでも内容の理解を深めるためには、予習・事前学習が欠かせません。もちろん、すべて完璧に覚えてきてくださいというわけではありません。受講した際に、「なんかその言葉は聞いたこと、見たことがあるぞ。なるほど、あそこ書いてあったことは、そういうことだったのか」という程度で結構です。

私としては、ある程度、予習・事前学習をされてきたことを前提として講義を進めたいと考えています。万一、事前学習なし（準備不足）の場合は、苦痛でしかも怒濤のように時間だけが過ぎ去ってしまうかもしれません。皆さんにとって、有意義な時間が共有できるように努めますし、同時に祈念しております。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|--------------------------|---|--|
| 1 | 社会の変容 （第1章） | 社会保障を学ぶ前に、社会保障を取り巻く私たちの生活環境の変化を理解する。 キーワード：少子高齢化、家族形態、就業構造、経済、ワークライフバランスなど | 少子高齢化、人口減少、家族形態の変化、就業構造（形態）の多様化など、私の生活環境は変化し続けています。これらの生活環境の変化を理解し、これらから学ぶ社会保障の前提を把握しましょう。 |
| 2 | 社会保障の概念と範囲及び対象者 （第2章） | 社会保障はどのようにとらえるのか。社会保障の概念と範囲、対象者を確認する。 キーワード：歴史的形成体、アメリカ社会保障法、ベヴァリッジ報告など | 歴史的形成体である社会保障をどのように理解するのか、また範囲には何が含まれるのか、そしてそれは各国で異なるのかなどを学びます。 |
| 3 | 社会保障の役割と意義 （第2章） | 現代社会における社会保障の役割と意義について理解する。 キーワード：生活安定・向上機能、所得再分配機能、経済安定機能など | 現在の社会保障には、国民の生涯にわたって健やかで安心できる生活を保障する役割があるが、そのために社会保障はどのように機能するのかについて学びます。 |
| 4 | 社会保障の理念 （第2章） | 社会保障を支える理念にはどのようなものがあるのかについて考えてみましょう。 キーワード：ミニマムとオプティマム、普遍主義と選別主義、ノーマライゼーションなど | 社会保障の理念を単に整理するのではなく、それらの理念に問題点はないかという視点でまとめることが重要です。 |
| 5 | 社会保障制度の展開（欧米） （第2章） | イギリスを中心とした欧米の社会保障の歴史を理解する。 キーワード：救貧法、社会調査、失業法など | 貧困観の変遷及び社会保険と公的扶助の統合の視点から、イギリスを中心とした欧米の社会保障の歴史（特徴）について学びましょう。 |

| | | | |
|----|----------------------------|--|--|
| 6 | 社会保障制度の展開（日本） （第2章） | 日本の社会保障の歴史を理解する。 キーワード：恤救規則、GHQ、国民皆保険・皆年金など | イギリスを中心とした欧米の歴史と同様の視点から、日本の社会保障の展開過程について学びます。 |
| 7 | 社会保障の財源 （第3章） | 社会保障における給付と負担の関係について理解する。 キーワード：一般会計、地方経費、保険料、租税など | 社会保障における財源を国と地方の側面から学びます。また、財源構成の内容特徴についても理解深めます。 |
| 8 | 社会保障給付費の動向と特徴 （第3章） | 社会支出と社会保障給付費の相違を把握しつつ、現状を把握する。 キーワード：社会支出、社会保障給付費など | OECD 基準の社会支出と ILO 基準の社会保障給付費から日本の特徴と今後の見通しを学びます。 |
| 9 | 国民負担率と社会保障と経済の関係性 （第3章） | 国民負担率の定義と日本の現状および国際比較について理解する。 キーワード：国民負担率、潜在的国民負担率など | 国民負担率や潜在的国民負担率の意味を理解するとともに、日本の現状と国際的な位置づけを学びます。 |
| 10 | 社会保険と社会扶助の成立要件 （第4章） | 保険や社会保険の成立要件や社会保険の理論と実際について理解します。 キーワード：大数の法則、給付反対給与均等の原則、強制加入など | 社会保険といえども保険の一つであるため、まず、保険の成立要件を把握したうえで、社会保険の成立要件を学びます。そして、仕組み上の社会保険の理論と実際について学びます。 |
| 11 | 社会保険と社会扶助の特徴と関係性 （第4章） | 社会保険の特徴と社会扶助の仕組みとその関係性について理解します。 キーワード：社会保険方式、社会扶助方式など | 社会保険と社会扶助を比較しながらそれぞれの特徴を明確にし、両者の関係性についてまとめます。 |
| 12 | 社会保険と社会扶助の範囲 （第5章） | 社会保障の中核にある社会保険と社会扶助の範囲について理解する。 キーワード：制度別体系、選別的給付と普遍的給付、機能別・給付形態別 | 制度別体系、僭越的給付と普遍的給付体系、機能別・給付形態別体系の側面から社会保険と社会扶助の範囲について学びます。 |
| 13 | 民間保険の仕組みと社会保険との関係 （第5章） | 民間保険の仕組みと公的（社会）保険との関係性について理解する。 キーワード：保険の原則、第一分野、第二分野、第三分野など | 民間保険の仕組みや成立するための原則、そして民間保険を分類するとともに、社会保険とどのような関係性にあるのかについて学びます。 |
| 14 | 企業年金等の役割と機能 （第5章） | 企業年金の枠組みと概要について理解する。 キーワード：確定給付企業年金、確定拠出年金（企業型・個人型） | 企業年金の役割を理解したうえで、企業年金の種類を学びます。また、近年拡大傾向にある確定拠出年金（個人型：iDeCo）の内容と現状についても学びます。 |
| 15 | 社会保障とは何か （全体） | 社会保障の理解について整理します。 キーワード：社会保障・税一体改革、一億総活躍社会など | 第1章から第5章までの内容から、社会保障をどのように理解したのかを整理します。 |

■レポート課題

| | |
|-------|---|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 私たちの生活環境の変化を踏まえながら、社会保障をどのように理解したらよいか。そして、現代社会において社会保障（制度）が果たしている役割について述べなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

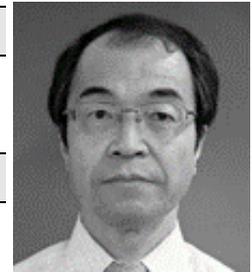
私たちは、あまり意識せず「社会保障」という言葉を使っていますが、改めて社会保障とは何かを考えてみましょう。今日の私たちの生活（社会保障を取り巻く環境）は、少子・高齢化、逼迫する財政問題などを背景にして荒波の中にありますが、まずこのような環境の変化の中で、社会保障がどのように定義づけられるのかを整理してみてください。その上で、社会保障（個別制度ではなく、総体として）が現代社会の中でどのような役割（機能）を果たしているか、をまとめてください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 題意を正確に把握し、指示に従って述べられているか。
- 2) 単に暗記したものを記述するのではなく、自分なりの視点からまとめられているか。
- 3) 抽象的な表現にとどまらず、現実との関連づけの視点からもまとめられているか。
- 4) 結論は感想にとどまらず、根拠をもって述べられているか。

| | | | |
|--------|--|------------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 社会保障論Ⅱ | | 阿部 裕二 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| CD4089 | 2 | RorSR (講義) | 3年以上 |
| 履修登録条件 | 「社会保障論Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方が履修登録できます。 | | |



科目の概要

■科目の内容

時代とともにそして私たちの社会の変容とともに、社会保障制度は改正され続けてきました。介護保険のように新たに創設された制度もあります。本科目においては、これら社会保障制度の体系を踏まえた上で、それぞれの制度（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生及び医療）の概要と問題点について考察します。その際、各制度を縦割りではなく横断的視点から考察していくことが重要です。

それは、私たちの生活において制度が担当で存在するわけではなく、各制度が関連性をもちながら関わるからに他なりません。

さらに、日本との比較の観点から、諸外国の社会保障制度の概要についても触れつつ、日本の社会保障制度の国際的な位置づけについても学びます。

【教員等の実務経験による指導内容】

市民向けの講座において、年金保険や医療保険の改正内容を解説してきた。また、介護保険制度創設時には、市民のみならず行政職員に対しても解説もしてきた。現在は、ある都市においては介護保険運営協議会に20年にわたり関わってきた。このような経験を活かし、介護保険の現状と諸問題について講義をする。

■到達目標

- 1) 社会保障制度の概要を理解し説明できる。
- 2) 諸外国の社会保障制度を理解したうえで、日本の位置づけを説明できる。
- 3) 少子高齢社会におけるあるべき生活保障システムを自らの言葉で説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%+スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「社会保障論Ⅰ」と共通）

福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ 12 社会保障（第2版）』弘文堂、2025年
 ※「社会保障論Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心に講義を行います。

【参考図書】

- 1) 阿部裕二監修『すぐに役立つ！ケアマネ、生活相談員、生活支援員のための社会保障制度がわかる本』ナツメ社、2021年
- 2) 棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（最新版）』有斐閣アルマ
- 3) 『社会保険のてびき（最新版）』社会保険研究所

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

本講義のテーマは、「社会保障制度の仕組みと課題を理解し、あるべき社会保障のシステムを考えてみよう」です。スクーリングの際に提示される内容の理解にとどまらず、それらを素材としながら、受講の皆さんがあるべき社会保障のシステムを考えていくことが重要なのです。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|---------------------------|---|
| 1 | 社会保障制度の体系と年金保険の概要 | 社会保障制度の体系を改めて確認するとともに、年金保険の仕組みを学びます。 |
| 2 | 年金保険制度の諸問題 | 年金保険（国民年金、厚生年金）の概要と諸問題について学びます。 |
| 3 | 医療保険制度の概要 | 医療保険制度の仕組みと健康保険や国民健康保険などの制度概要について学びます。 |
| 4 | 医療保険制度の諸問題 | 高齢者医療や公費負担医療、医療供給体制を考察しつつ、医療保険の諸課題について学びます。 |
| 5 | 雇用保険制度と労働者災害補償保険制度の概要と諸問題 | 雇用保険や労働者災害補償保険などの労働保険の仕組みと諸課題について最近の状況を交えながら学びます。 |
| 6 | 介護保険制度の概要と諸問題 | 介護保障という観点から介護保険の限界と、その他の受け皿の在り方および諸課題について学びます。 |
| 7 | 社会手当と公的扶助の概要と諸問題 | 社会手当としての児童手当などの仕組みと諸課題について学びます。 |
| 8 | 社会保障制度の課題と将来（まとめ） | 2025年問題、2040年問題など、社会保障が直面する社会状況を踏まえながら、あるべき社会保障システムを考えます。 |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

スクーリング時には、作成した『理解しやすい社会保障論Ⅱ講義資料集』を配付して、この資料集を中心にして講義を行います。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング評価基準

スクーリング試験のみ（100%）（持込不可）で評価します（稀ですが受講態度を加味する場合があります）。試験では2題を選択して解答（記述式）していただきます。なお、試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで

学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って皆さん自身の見解をどれだけ論述できるかについて問います。詳しくはスクーリング時に示します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「スクーリング講義内容」（8項目）の項目に該当する部分を教科書に沿ってある程度読んで出席してください。つまり、少ない講義回数なかで、少しでも内容の理解を深めるためには、予習・事前学習が欠かせません。もちろん、すべて完璧に覚えてきてくださいというわけではありません。受講した際に、「なんかその言葉は聞いたこと、見たことがあるぞ。なるほど、あそこ書いてあったことは、そういうことだったのか」という程度で結構です。

私としては、ある程度、予習・事前学習をされてきたことを前提として講義を進めたいと考えています。万一、事前学習なし（準備不足）の場合は、苦痛でしかも怒濤のように時間だけが過ぎ去ってしまうかもしれません。皆さんにとって、有意義な時間が共有できるように努めますし、同時に祈念しております。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|---------------------------------|---|--|
| 1 | 公的年金の構造 （第6章） | 二階建てとしての年金保険の構造について理解する。 キーワード：賦課方式と積立方式、二階建て構造など | 公的年金の財政方式とともに、国民年金と厚生年金の二階建て構造であることを学ぶ。 |
| 2 | 公的年金保険（国民年金）の仕組み （第6章） | 年金保険制度特に国民年金の仕組みを理解する。 キーワード：第3号被保険者、基礎年金、国民年金基金など | 国民年金の給付内容を含めた仕組みについて理解を深めましょう。 |
| 3 | 公的年金保険（厚生年金保険）の仕組みと諸問題 （第6章） | 厚生年金保険の仕組みと、公的年金が抱える問題点について理解する。 キーワード：標準報酬、保険料率、老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金、厚生年金基金、空洞化など | 厚生年金保険の仕組み、つまり保険者、被保険者、保険料、給付内容等について学びます。その際、国民年金と比較しながら整理をすると理解が深まります。また、同時に、公的年金が抱える問題点についても人口の変動、空洞化、国際化の観点から考察してみてください。 |
| 4 | 医療保険制度の仕組みと制度体系 （第7章） | わが国の医療保険制度の仕組みを理解しつつ、医療保険制度の体系について整理する。 キーワード：診療報酬、審査支払機関、出来高払い、薬価基準など | 私たちの生命や身体そして健康を保持するための医療とそれを支える社会保障はどのような構造か、さらにわが国の国民医療を支える医療保険はどのような仕組みで作られているのか等について学びます。その際、世界の中で日本はどのような特徴をもっているのかという観点からも考察してみてください。 |
| 5 | 被用者保険の仕組み （第7章） | 被用者保険の一つとしての健康保険などの仕組みについて理解する。 キーワード：健康保険、現物給付、現金給付、立替払いなど | 被用者保険（健康保険等）の内容の理解に努めます。その際、健康保険制度の給付は、現物給付だけではなく、多様な給付形態が含まれていることに注意が必要です。 |

| | | | |
|----|-----------------------------------|---|---|
| 6 | 国民健康保険、高齢者医療の仕組み (第7章) | 国民健康保険と高齢者医療制度の仕組みについて理解する。 キーワード：前期高齢者、後期高齢者、特定健康診査及び特定保健指導など | 地域保健である国民健康保険の仕組みを学びます。また、高齢者の医療制度を前期高齢者医療と後期高齢者医療制度の側面からまとめます。その際、各々の制度の類似点と相違点を意識しながら整理することが肝要です。 |
| 7 | 公費負担医療と医療の供給体制および諸問題 (第7章) | 特定目的のため、国や地方自治体の公費により、医療費の一部または全部負担する制度を理解するとともに、医療の供給体制について理解する。 キーワード：公費負担医療、公衆衛生、医療提供施設、医療計画、医療従事者、メディカル、コメディカル、インフォームド・コンセントなど | 医療保険以外の保健事業を概観します。また、国民に対して、良質かつ適切な医療を提供するための医療施設と、医療を担う医療関係者について学ぶとともに、医療保険が抱える諸問題について理解することが重要です。 |
| 8 | 労働保険制度(雇用保険)の仕組みと諸問題 (第8章) | 労働保険の一つである雇用保険の仕組みと諸問題を理解する。 キーワード：ハローワーク、失業等給付、育児休業給付、二事業など | 雇用保険の仕組みと諸問題を学びますが、雇用保険の対象者が失業者のみならず現職者をも対象としていることから、自らの生活に身近な制度あるという意識で学んでください。 |
| 9 | 労働保険制度(労災保険)の仕組みと諸問題 (第8章) | 労働保険の一つである労働者災害補償保険の仕組みと諸問題について理解する。 キーワード：労働基準監督署、メリット制、社会福祉促進等事業など | 労働者災害補償保険の仕組みと諸課題について学びます。その際、労働者災害補償保険は、正規、非正規を問わず雇用される労働者すべてが対象となる制度あるという理解が重要です。 |
| 10 | 介護保険制度の仕組みと諸問題 (第9章) | 介護保険の成立背景と理念およびその内容、諸問題について理解する。 キーワード：高齢者介護、スティグマ、社会的入院、介護の社会化、自立支援、利用者本位、地域包括ケアなど | 介護保険がいかなる背景において登場したのか、そして現在ある介護保険はどのような理念のもとに展開されているのかを学びます。その際、その理念に潜む問題点についても制度の仕組みとともに考察してください。 |
| 11 | 社会扶助(社会手当：児童手当)の仕組みと諸問題 (第10章) | 社会手当の特徴と、社会手当の一つである児童手当の仕組みと諸問題について理解する。 キーワード：社会手当、児童手当、子ども手当、所得制限など | ここでは、初めに社会扶助の一形態である社会手当の意味を理解することに努めます。その上で、社会手当としての児童手当の仕組みと日本の特徴および諸問題について理解を深めてください。 |
| 12 | 社会扶助(公的扶助と社会福祉)の仕組みと諸問題 (第10章) | 公的扶助および社会福祉の仕組みと特徴と諸問題を理解する。 キーワード：生活保護、ミーンズ・テスト、措置と契約など | その際、社会保険と比較しつつ理解するとよいでしょう。また、社会福祉の制度が「措置」から「契約」へと基本的なサービス提供の方法において、大きく変化を遂げていることに留意しながら理解することが肝要です。 |

| | | | |
|----|----------------------|---|---|
| 13 | 諸外国の社会保障制度 (第11章) | 諸外国の社会保障を概観しながら、日本社会保障および福祉国家の特徴を把握する。 キーワード：エスピン・アンデルセン、自由主義的福祉レジーム、保守主義的福祉レジーム、社会民主主義的福祉レジームなど | 諸外国における社会保障制度をみる際に、類型化させながらみると特徴の把握がしやすくなります。したがって、エスピン・アンデルセンの類型に従って、各国の社会保障の特徴の把握に努めましょう。そして、わが国と比較してみるとよいでしょう。 |
| 14 | 社会保障制度の将来 (終章) | 直面する課題から社会保障制度への影響について理解する。 キーワード：2025年問題、2040年問題など | 2025年問題や2040年問題などが社会保障に及ぼす影響について考えてください。 |
| 15 | まとめ | あるべき社会保障システムについて考える。 | この学びを通じて、受講生の皆さんなりのあるべき社会保障のシステムを考えてみてください。 |

■レポート課題

| | |
|------|--|
| 1単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2単位め | 「年金保険」「医療保険」「雇用保険」「労働者災害補償保険」「介護保険」「社会手当としての児童手当」のなかから一つ選び、仕組みとその制度が抱えている諸問題について述べなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2単位めアドバイス】

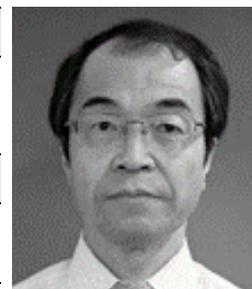
「年金保険」「医療保険」「雇用保険」「労働者災害補償保険」「介護保険」「社会手当としての児童手当」の制度から一つを選び、特徴を踏まえながら仕組みをまとめるとともに、制度がもつ諸問題について皆さんなりにまとめてください。その際に、単にテキストをまとめるだけでなく、自分なりに調べて課題を追加的に論述することが重要です。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 題意を正確に把握し、指示に従って述べられているか。
- 2) 単に暗記したものを記述するのではなく、自分なりの視点からまとめられているか。
- 3) 抽象的な表現にとどまらず、現実との関連づけの視点からもまとめられているか。
- 4) 結論は感想にとどまらず、根拠をもって述べられているか。

| | | | |
|--------|-----|------------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 公的扶助論 | | 阿部 裕二 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| CD4175 | 2 | RorSR (講義) | 3年以上 |



科目の概要

■科目の内容

本科目は、貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解するとともに、貧困問題を抱えている人々への社会福祉士としての適切な支援のあり方について学ぶことを目的としています。

日本は、近年は景気の低迷、雇用環境の悪化などを背景にして、国民生活の不安は深化し、貧困や格差も拡大しています。その意味では、「貧困」問題は国民生活の身近なところにあるといえるでしょう。このような現状を考えると、国民生活のラスト・セーフティ・ネットとして位置づけられている公的扶助は、私たちの生活において重要な役割を果たしているのです。

そこで、本講義においては、貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について概観します。次に、貧困の歴史と貧困観の変遷について整理します。そして、貧困・低所得者に係る法制度と支援の仕組みについて理解を深めます。最後に就労支援や相談支援の在り方について理解を深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

主に家庭の抱える経済格差から生まれる子どもの教育格差の解消を目的とした公益社団法人や NPO 法人のアドバイザーとしての経験をいかし、生活困窮（者）の状況と生活保護制度を関連する諸制度にまで視野を広げて講義する。

■到達目標

- 1) 貧困概念や貧困を取り巻く環境が説明できる。
- 2) 貧困に係る法制度や支援の仕組みが理解でき、第三者へ説明できる。
- 3) 知識だけではなく、対象者の支援に活用できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%+スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】

福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ 16 貧困に対する支援』弘文堂、2022 年（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

- 1) 湯浅誠『半貧困―「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008年
- 2) 駒村康平『大貧困社会』角川SSC新書、2009年
- 3) 厚生統計協会編『国民の福祉と介護の動向（最新版）』厚生統計協会
- 4) 全国社会福祉協議会編『生活保護手帳（最新版）』全国社会福祉協議会

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

講義のテーマは、「豊かな社会における貧困・低所得の様相と支援の現状・課題」です。社会の基底的なセーフティ・ネットである生活保護の仕組みや現実、豊かさのなかに潜在化し、十分に知られているとはいえません。しかし、貧困が私たちの生活上に直面する共通な危険（リスク）の一つであるとすれば、貧困に対応する公的扶助（生活保護）は、年金や医療と同様に身近な制度ともいえるのです。そこで本講義においては、拡大しつつある貧困概念（様相）を踏まえながら、生活保護の考え方（目的、原理、原則など）、制度の内容、そして現代社会における生活保護および生活困窮者支援の課題そして子どもの貧困について、受講生の皆さんとともに考えていきたいと思いません。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|-------------------------------------|---|
| 1 | 拡大する貧困の概念と公的扶助の役割 | 貧困概念の変遷と社会保障制度体系における公的扶助の役割について学びます。 |
| 2 | 生活実態と社会環境および貧困の歴史 | 貧困状態にある人びとの生活実態について概観し、貧困に対する制度の発展過程の特徴を学びます。 |
| 3 | 貧困に対する法制度：生活保護制度の概要 | 貧困に対する法制度の中核に位置付けられる生活保護制度の概要について学びます。 |
| 4 | 貧困に対する法制度：生活保護制度における自立支援と近年の生活保護の動向 | 生活保護における自立支援の内容と近年の生活保護の動向について学びます。 |
| 5 | 貧困に対する法制度：生活困窮者自立支援法 | 第2のセーフティ・ネットとしての生活困窮者自立支援制度の概要と、その他の低所得者支援の制度を学びます。 |
| 6 | 貧困に対する法制度：低所得対策とホームレス自立支援法 | 低所得者に対する各種制度とホームレス実態を踏まえながら、ホームレス支援の実際を学びます。 |
| 7 | 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 | 国や自治体および福祉事務所等の役割や、各種専門職の役割について学びます。 |
| 8 | 貧困に対する支援の実際 | 支援の実際を教科書の事例にとどまらず、私自身の経験を踏まえて提示します。 |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

スクーリング時には、作成した『理解しやすい公的扶助論講義資料集』を配付して、この資料集を中心にして講義を行います。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング評価基準

- ・スクーリング中に学んだ内容から出題します。(持込不可)。試験では2題を選択して解答(記述式)していただきます。
- ・スクーリング試験(100%)(評価基準：①題意を踏まえているか、②スクーリングで学んだことを踏まえているか、③内容は適切か、④自分なりの言葉で表現されているか)

■スクーリング事前学習(学習時間の目安：5～10時間)

「スクーリング講義内容」(8項目)の項目に該当する部分を教科書に沿ってある程度読んで出席してください。つまり、少ない講義回数の中で、少しでも内容の理解を深めるためには、予習・事前学習が欠かせません。もちろん、すべて完璧に覚えてきてくださいというわけではありません。受講した際に、「なんかその言葉は聞いたこと、見たことがあるぞ。なるほど、あそこに書いてあったことは、そういうことだったのか」という程度で結構です。

私としては、ある程度、予習・事前学習をされてきたことを前提として講義を進めたいと考えています。万一、事前学習なし(準備不足)の場合は、苦痛でしかも怒濤のように時間だけが過ぎ去ってしまうかもしれません。皆さんにとって、有意義な時間が共有できるように努めますし、同時に祈念しております。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|--------------------------|---|---|
| 1 | 貧困概念と公的扶助の役割(第1章) | 貧困概念の変遷を概観し、公的扶助の役割を理解する。 キーワード：絶対的貧困、相対的貧困(はく奪)、社会的排除、子どもの貧困、ラスト・セーフティ・ネット、スプリングボードなど | 貧困に対する支援理解の前提として、貧困の考え方を学び、対策の中心的政策である公的扶助(生活保護)の性格と役割について把握してください。 |
| 2 | 貧困の状態にある人の生活実態と社会環境(第2章) | 貧困状態にある人の生活実態と貧困状態にある人を取り巻く社会環境を理解する。 キーワード：健康、居住、就労、社会関係資本、経済構造、家族・地域の変化など | 健康、住居、就労、教育そして社会関係資本の観点から貧困状態にある人の生活実態を理解するとともに、経済構造の変化、家族・地域の変化、格差の拡大、社会的孤立などの社会環境についても理解を深めてください。 |
| 3 | 貧困の歴史(第3章) | イギリスにおける公的扶助の歴史を「救貧法」を始点として学ぶ。 キーワード：1547年法、エリザベス救貧法、改正救貧法、失業扶助、国民扶助法、スティグマなど | イギリス資本主義の発展過程において、救貧法はどのように変質していったのか、その際、貧困に対する価値観はいかに転換していったのか(そのきっかけは何か)等に留意しつつまとめることが重要です。また、貧困観の変遷に影響を及ぼした人物の理解も肝要です。 |

| | | | |
|----|---------------------------------------|--|--|
| 4 | 貧困の歴史 (第3章) | 日本における公的扶助の歴史を「恤救規則」を始点として学ぶ。 キーワード：恤救規則、救護法、社会救济、旧生活保護法、生活保護法など | 日本における公的扶助の歩みを恤救規則を始点として学ぶが、年表的な整理の仕方ではなく、貧困観を背景とした各制度の特徴と時代背景や、戦後の制度におけるGHQの果たした役割を意識してまとめることが重要です。 |
| 5 | 貧困に対する法制度 ①生活保護制度の枠組み (第4章) | 生活保護制度の仕組みを理解する。 キーワード：目的、基本原理、原則、扶助の内容など | 生活保護制度の目的、基本原理、原則、8種類の扶助（現物給付・現金給付）の内容等を整理・理解してください。 |
| 6 | 貧困に対する法制度 ①保護施設と保護基準 (第4章) | 生活保護制度の仕組みを理解する。 キーワード：保護施設、保護基準（扶助の算定方式）など | 生活保護における保護施設の内容、また、保護基準はいかなる時代背景のもとで変遷していったのか、そして現在の基準額等を学んでください。 |
| 7 | 貧困に対する法制度 ①生活保護の動向 (第4章) | 現在の生活保護の現状を統計数字で理解するとともに、近年の生活保護の見直し内容について理解する。 キーワード：被保護人員、被保護世帯数、保護率 | 現在の生活保護の現状（被保護人員などを含め）を統計数字で把握します。また、近年の生活保護の見直し内容について整理してください。 |
| 8 | 貧困に対する法制度 ①生活保護における自立 (第4章) | 生活保護における自立支援プログラムの意味と相談援助活動との関連性について学ぶ。 キーワード：就労自立、日常生活自立、社会生活自立、自立支援プログラムなど | 自立支援プログラムとはどのような手順で作成され、そのような内容・方法のもと個々の利用者に提供されるのかなどについて学びます。そして、自立支援プログラムと相談支援の関係性についてまとめてください。 |
| 9 | 貧困に対する法制度 ②生活困窮者自立支援法 (第5章) | 生活困窮者自立支援法の概要について学ぶ。 キーワード：第2のセーフティ・ネット、自立相談支援事業、任意事業 | 第2のセーフティ・ネットとしての生活困窮者自立支援制度の仕組みと現状について整理し、理解してください。 |
| 10 | 貧困に対する法制度 ③低所得者対策 (第6章) | 低所得者対策の中心的な制度である生活福祉資金貸付制度などについて理解する。 キーワード：生活福祉資金貸付制度、無料低額診療事業、無料低額宿泊所、公営住宅、求職者支援制度、法律扶助など | 低所得者対策には多様な政策があるが、そのなかでも、生活福祉資金貸付制度を中心とした諸制度を整理し、理解してください。 |
| 11 | 貧困に対する法制度 ③低所得者対策、ホームレス対策 (第6章) | ホームレスの定義と現状と支援の方向性を理解する。 キーワード：ホームレス、社会的孤立など | ホームレスの意味とホームレス問題を整理しつつ、自立支援の現状についてまとめてください。 |

| | | | |
|----|----------------------------------|---|---|
| 12 | 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 (第7章) | 実施体制を支える各種関係機関をそれぞれ理解する。 キーワード：公私関係、法定受託事務、自治事務、福祉事務所、自立相談支援機関など | 生活保護における法定受託事務と自治事務を理解するとともに、国家の責任である貧困支援にかかわる各種機関の役割について学びを深めてください。 |
| 13 | 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 (第7章) | 貧困支援における専門職の内容と役割について学ぶ。 キーワード：現業員、査察指導員、社会福祉主事、社会福祉士、精神保健福祉士など | 福祉事務所に置かれている現業員や査察指導員の役割と関係性を含めて、様々な専門職が連携しながら貧困（低所得）支援を行っていることを理解してください。 |
| 14 | 貧困に対する支援の実際 (第8章) | 事例を参考にして支援実際と留意点を学ぶ。 キーワード：ソーシャルワーク倫理綱領、多職種、多機関の連携、地域づくり、場づくりなど | テキストで取り上げられている事例を参考にしながら、どのような視点で支援に取り組むべきか、そこでの留意点は何かについてまとめてください。その際、連携や地域づくり、場づくりの視点からも考察してみてください。 |
| 15 | まとめ (全体) | 全体的な学びを通して、あるべき支援を考える。 キーワード：貧困概念の拡大、伴奏型支援、連携、地域づくりなど | これまでの学びから、多様化する貧困に対してどのような支援が望ましいのか、その際に、新たな施策の開発も含めて皆さんなりに考えてみてください。 |

■レポート課題

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 貧困に対する法制度の枠組みを述べるとともに、支援における関係機関とその役割について整理しなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

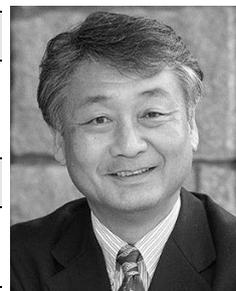
現代社会においては、さまざまな意味での貧困が存在します。それらの意味を踏まえながら、どのような法制度が整備されているのか、また、その法制度を実施する機関にはどのようなものがあり、どのような役割を果たしているのかをまとめてください。その際、多機関、多職種の連携という視点からも考察してください。

なお、理論上の考察のみならず、実際上の問題点や課題についてまとめることも重要です。

■評価基準

- 1) 題意を正確に把握し、指示に従って述べられているか。
- 2) 単に暗記したものを記述するのではなく、自分なりの視点からまとめられているか。
- 3) 抽象的な表現にとどまらず、現実との関連づけの視点からもまとめられているか。
- 4) 結論は感想にとどまらず、根拠をもって述べられているか。

| | | | |
|------------|-----|--------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 発達障害者の地域支援 | | 三浦 剛 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| DD2211 | 1 | S (講義) | 1年以上 |



科目の概要

■科目の内容

これまで法の狭間におかれてきた学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（AD/HD）、アスペルガー症候群や高機能自閉症といわれる人たちの、その障害の特性を学び、教育、司法、就労などのさまざまな領域からの支援アプローチを学ぶ。なかでも個別支援計画の策定や社会資源開発といった地域生活支援に必要とされる社会福祉援助技術を中心に、事例を用いてその支援のあり方や方法の実際を学ぶ。

- ・発達障害の概念
- ・その生活困難の特徴
- ・地域生活支援の理念、内容、方法
- ・ライフステージごとの地域生活支援の実際
- ・今後の課題

【教員等の実務経験による指導内容】

発達障がい者及びその家族等への相談援助の実務経験をいかし、発達障がい者へのソーシャルワークによる地域生活支援を実践できる人材を育成します。

■到達目標

- 1) 発達障害の概念について説明することができる。
- 2) 発達障害がある人の生活上の困難を生活の実態を通して説明することができる。
- 3) ソーシャルワークによる地域生活支援の考え方を説明できる。
- 4) 支援制度や方法の具体的仕組みについて説明することができる。
- 5) 支援を行う際の資源やそれらの連携システムの活用法が説明できる。
- 6) 支援の今後の課題について、自分の意見をまとめ、説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」を身につけてほしい。

■教科書・参考図書

【教科書】

スクーリング時にプリントを配付します。※教科書の配本はありません。

【参考図書】

杉山登志郎著『発達障害の子どもたち』講談社現代新書、2007年
山崎晃資編著『自閉症スペクトラムと特別支援教育』金剛出版、2010年
新見俊昌他編著『青年・成人期自閉症の発達保障』クリエイツかもがわ、2010年など

■スクーリング講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|--------------------|---------------------------|
| 1 | 発達障害とは | 発達障害の概念を学ぶ |
| 2 | ソーシャルワークによる地域生活支援① | 支援の理念 |
| 3 | ソーシャルワークによる地域生活支援② | 支援の方法、制度 |
| 4 | 乳幼児期支援の実際 | 早期療育システムによる支援の実際 |
| 5 | 児童・生徒期の支援の実際 | 教育場面を中心に、スクールソーシャルワークも視野に |
| 6 | 就労支援の実際 | 地域支援システムでの支援過程の展開 |
| 7 | これからの課題 | 社会的排除を視点に考える |
| 8 | まとめ | |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングのみ開講します。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験 100% (プリントと自筆ノートのみ持込可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安: 5~10 時間)

以下のキーワードについて、調べておくこと

「発達障害概念の変遷」「発達障害者支援法」「(早期)療育システム」「スクール(学校)ソーシャルワーク」「就労支援の過程(ケアマネジメント)」「社会的排除」

■スクーリング事後学習 (学習時間の目安: 20~25 時間)

発達障害の障害特性により引き起こされる社会的排除を、地域生活、教育、就労などの各場面ごとに説明でき、その解消のためにはどのような支援策が必要か考え、自らの立場でできること、やらなくてはならないことを具体的に考えてみる。

| | | | |
|--------|-----|------------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 介護論 | | 後藤 美恵子 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| DD2241 | 2 | RorSR (講義) | 1年以上 |



※2021年度1年次入学者および2022年度1・2年次(編)入学者および2023年度以降入学者に対して開設されている科目です。それ以外の方は履修することはできません。

科目の概要

■科目の内容

わが国における高齢者の全体像を理解し、社会保障制度である介護保険制度の創設の背景と目的を理解し、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点について理解する。さらに、社会福祉の基本理念を踏まえた上で、人としての尊厳を重視した生活支援のあり方について専門的観点を習得すると共に、専門職としての介護理念を構築することを目的としています。

【教員の実務経験による指導内容】

高齢者介護総合センターでのケースワーカーやケアワーカー、ケアマネージャーとしての実践経験をいかし、高齢者福祉施策・制度と関連させ人としての尊厳の観点から介護のあり方について、臨床場面から考えさせる。

■到達目標

- 1) 介護を取り巻く社会的背景について説明できる。
- 2) 「介護」をどのように定義づけるのか、介護の概念について説明できる。
- 3) 介護の範囲の考え方と専門性に求められる資質について説明できる。
- 4) 介護過程の仕組みについて説明できる。
- 5) 認知症の原因と症状を踏まえ、認知症高齢者の対応方法について説明できる。
- 6) 高齢者の終末期の特徴とケアのあり方について説明できる。

■学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連

とくに「人と社会の理解力」「倫理実践力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 60%+スクーリング評価 or 科目修了試験 40%

■教科書・参考図書

【教科書】

福祉臨床シリーズ編集委員会編『社会福祉士シリーズ 13 高齢者に対する支援と介護保険制度(第5版)』弘文堂、2019年

(最近の教科書変更時期) 2025年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

※テキストを持っていない場合でも受講において支障はありません。

【参考図書】

- 1) 渡辺 長編『外国人介護士と働くための異文化理解』大阪大学出版会、2022年
- 2) 黒澤貞夫著『介護福祉の「専門性」を問い直す』中央法規出版社、2018年
- 3) 鬼崎信好著『高齢者介護サービス論：過去・現在・未来に向けて』中央法規出版、2014年
- 4) 老人保健福祉法制研究会編『高齢者の尊厳を支える介護』法研、2003年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

わが国における高齢化社会における介護の社会的背景を理解し、現代社会における高齢者の人生を支える上での重要となる介護の概念、さらに、社会福祉の基本理念を踏まえた上で、人としての尊厳を重視した高齢期の生活支援のあり方についての理解を深化させ、介護とは何か、その本質を再考する。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|----------|-------------------|
| 1 | 社会的背景 | 介護の社会的背景 |
| 2 | 介護の概念 | 介護の概念と生活支援 |
| 3 | 介護の専門性 | 介護の範囲と専門性 |
| 4 | 介護課程 | ケアマネジメントにおける介護過程 |
| 5 | 認知症高齢者① | 基本症状とBPSD |
| 6 | 認知症高齢者② | 認知症高齢者の理解と支援 |
| 7 | 終末期ケア | 高齢者の終末期の特徴とケア |
| 8 | まとめ | 成年後見制度・グランドデザインなど |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料をもとに講義を進める。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況 20%+スクーリング試験 80% (持込可)

試験は単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験課題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

『高齢者に対する支援と介護保険制度』の第2章「高齢者の特性と疾病」、第3章「少子高齢社会の現状と動向・課題」、第4章「高齢者の生活実態と福祉・介護ニーズ」、第5章「介護の概念と介護予防」の中の1.介護の概念、2.介護の理念と倫理、3.介護過程の概要、第6章「認知症ケアの概況」、第7章「死と終末期ケア」をスクーリング受講前に読んでおいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容をふまえ、「自分が考える望ましい高齢社会の近未来像」を考え、深めてほしい。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|--|---|--|
| 1 | <p>高齢者福祉制度の発展過程</p> <p>明治維新以前の高齢者福祉制度（第1章1）</p> <p>明治維新から老人福祉法成立まで（第1章2）</p> | <p>・明治維新以前から老人福祉法成立までの高齢者福祉制度を理解する。</p> <p>キーワード：恤救規則、家制度、慈善事業、救護法、社会事業、生活保護法</p> | <p>・明治維新以前から老人福祉法成立までの高齢者福祉制度を理解し、説明できるようにしましょう。</p> |
| 2 | <p>老人福祉法制定から現代まで（第1章3）</p> <p>今日の高齢者福祉制度（第1章4）</p> | <p>・老人福祉法制定から現代までの高齢者福祉制度を理解する。</p> <p>キーワード：老人福祉法、老人福祉施設、在宅福祉サービス、福祉元年、老人保健法、長寿社会対策大綱</p> | <p>・老人福祉法制定から現代までの高齢者福祉制度を理解し、説明できるようにしましょう。</p> |
| 3 | <p>介護保険制度の仕組み</p> <p>介護保険制度創設の背景と経過（第8章1）</p> <p>介護保険制度の枠組み（第8章2）</p> | <p>・介護保険制度創設に至る流れを把握し、制度創設の背景・意義を理解する。</p> <p>・介護保険制度の目的、保険者、被保険者、保険給付と利用できるサービスを理解する。</p> <p>キーワード：介護保険制度の創設、介護保険制度の目的・理念、介護保険法改正、被保険者、保険料、財源構成、保険給付</p> | <p>・介護保険制度創設に至る流れを把握し、制度創設の背景・意義を理解し、生命できるようにしましょう。</p> <p>・介護保険制度の目的、保険者、被保険者、保険給付と利用できるサービスを理解し、説明できるようにしましょう。</p> |
| 4 | <p>介護保険制度の利用（第8章3）</p> | <p>・介護保険制度の利用手続き、給付の枠組みと費用負担を理解する。</p> <p>キーワード：要介護認定、介護支援、利用者負担</p> | <p>・介護保険制度の利用手続き、給付の枠組みと費用負担を理解し、説明できるようにしましょう。</p> |
| 5 | <p>介護保険サービス（第8章4）</p> | <p>・介護保険サービスについて、居宅サービス、施設サービスの基本的枠組みを理解する。</p> <p>キーワード：居宅サービス、施設サービス</p> | <p>・介護保険サービスについて、居宅サービス、施設サービスの基本的枠組みを理解し、説明できるようにしましょう。</p> |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 6 | 地域支援事業 (第8章5) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援事業創設の背景、地域支援事業の内容を理解する。 <p>キーワード：介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業、任意事業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援事業創設の背景、地域支援事業の内容を理解し、説明できるようにしましょう。 |
| 7 | 権利擁護の仕組み (第8章6) | <ul style="list-style-type: none"> ・措置制度から社会保険方式に転換し福祉サービスの権利見解を変えたことを踏まえ、制度利用に関する権利擁護の仕組みを理解する。 <p>キーワード：審査請求、苦情処理、サービス情報の公表制度</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・措置制度から社会保険方式に転換し福祉サービスの権利見解を変えたことを踏まえ、制度利用に関する権利擁護の仕組みを理解し、説明できるようにしましょう。 |
| 8 | 介護保険制度の運営 介護保険における組織及び団体の役割と実際 (第9章1) | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険運営に関わる公私それぞれの組織、団体の役割を理解する。 <p>キーワード：国及び地方公共団体の責務、市町村の役割、国民健康保険団体連合会、社会保険診療報酬支払基金、指定サービス事業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険運営に関わる公私それぞれの組織、団体の役割を理解し、説明できるようにしましょう。 |
| 9 | 介護報酬 (第9章2) | <ul style="list-style-type: none"> ・介護報酬の仕組み、介護報酬の推移と改正のポイントを理解する。 <p>キーワード：介護報酬の請求、支払い方法、介護報酬の改定、算定方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・介護報酬の仕組み、介護報酬の推移と改正のポイントを理解し、説明できるようにしましょう。 |
| 10 | 介護保険法における専門職の役割 (第9章3) | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の運営、サービス提供にかかわる専門職の職種の法的定義と介護保険サービス提供における役割を理解する。 <p>キーワード：介護支援専門員、介護職員、医師、看護師、理学・作業療法士、その他の専門職</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の運営、サービス提供にかかわる専門職の職種の法的定義と介護保険サービス提供における役割を理解し、説明できるようにしましょう。 |
| 11 | 介護保険法におけるネットワークおと実際 (第9章4) | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法における専門職の連携を理解する。 <p>キーワード：認定調査員、介護認定審査会、介護サービス計画作成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法における専門職の連携を理解し、説明できるようにしましょう。 |
| 12 | 地域包括支援センターと地域 地域包括支援センターの制度と役割 (第10章1) 地域包括支援センターの機能と組織体制 (第10章2) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの創設の背景と経緯、及び概要を理解する。 ・地域包括支援センターの基本機能と組織体制を理解する。 <p>キーワード：地域包括支援センターの目的・機能・組織、第1号介護予防支援事業、包括的支援事業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの創設の背景と経緯、及び概要を理解し、説明できるようにしましょう。 ・地域包括支援センターの基本機能と組織体制を理解し、説明できるようにしましょう。 |

| | | | |
|----|---|--|--|
| 13 | 地域包括支援センターの現状 (第10章3) 地域包括ケア (第10章4) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの設置、運営状況の現状を理解する。 ・高齢者の地域における自立生活を支援する医療・保健・福祉の連携・統合による地域包括ケアシステムを理解する。 <p>キーワード：地域包括支援センターの運営・活動、地域包括ケア</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの設置、運営状況の現状を理解し、説明できるようにしましょう。 ・高齢者の地域における自立生活を支援する医療・保健・福祉の連携・統合による地域包括ケアシステムを理解し、説明できるようにしましょう。 |
| 14 | 介護の概念と介護予防 介護の概念 (第5章1) 介護の理念と倫理 (第5章2) | <ul style="list-style-type: none"> ・介護のニーズの複雑化・多様化に伴う現在の介護に求められる機能・役割を理解する。 ・介護の専門性を支え理念と倫理を理解する。 <p>キーワード：介護の概念、介護の理念、自立支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・介護のニーズの複雑化・多様化に伴う現在の介護に求められる機能・役割を理解し、説明できるようにしましょう。 ・介護の専門性を支え理念と倫理を理解し、説明できるようにしましょう。 |
| 15 | 介護過程の概要 (第5章3) 介護予防 (第5章5) | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の理念や倫理的な視点に基づいて、利用者が望む生活の実現に向けた介護過程の意味と意義を理解する。 ・高齢者を介護することの意味を踏まえ、介護予防の概念を理解する。 <p>キーワード：介護サービス計画、介護過程、介護予防</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の理念や倫理的な視点に基づいて、利用者が望む生活の実現に向けた介護過程の意味と意義を理解し、説明できるようにしましょう。 ・高齢者を介護することの意味を踏まえ、介護予防の概念を理解し、説明できるようにしましょう。 |

■レポート課題

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 介護保険制度までの高齢者福祉制度の発展過程を踏まえ、介護保険制度の概要について整理し、その課題について自身の考えを具体的に論述しなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

介護保険制度の施行は、従前の老人福祉のあり方を、根本から変更させたといえます。テキスト第1章「高齢者福祉制度の発展過程」を踏まえた上で、第8章「介護保険制度の仕組み」、第9章「介護保険制度の運営」、第10章「地域包括支援センターと地域」の介護保険制度の概要を整理してください。さらに、現行の介護保険制度の課題を自身がどのように捉えたのか、今後の介護保険制度の展望を視野において具体的にまとめてください。

論術式レポート作成に当たっては、テキスト、参考文献等の内容を踏まえて自身の考えを書いてください。

■評価基準

- 1) 出題された課題の内容について理解できているか。
- 2) 課題に対する解答が指定のテキストの内容を踏まえているか。
- 3) テキストの内容を踏まえて、課題に対する自身の視点で考察がされているか。
- 4) 記述の分量が、800字程度以上書かれているか。

| 科目名 | | 担当教員 | |
|------------------|-----|-----------|------|
| 教育・学校心理学B（学校心理学） | | 中村 恵子 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| FE3548 | 2 | RorSR（講義） | 2年以上 |



※2019年度から、2017年度以前・2018年度以降に入学した方どちらも履修登録できる科目になりました。

※2017年度以前に入学した方で、「特講・福祉心理学4（スクール・カウンセリング）」の2017・2018年度単位修得者（中村恵子先生の講義を受講した方）は、本科目のスクーリングは受講できません（履修方法：Rでのみ単位修得可）

科目の概要

■科目の内容

教育臨床での専門職は、いまや教師だけでなくスクールカウンセラー、支援員、相談員、スクールソーシャルワーカーと多様化し、そのチーム支援が求められる時代になりました。本科目では、教育現場において生じる問題およびその背景を理解し、子どもの適応支援の方法について学びます。スクーリングでは、事例を用いて、学校不適応によって生じる問題とその適応支援の方法論を学びます。レポート学習では、教科書を読んで適応支援の方法と課題についての学びを深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

教育委員会の内側でカウンセラーを担っていた実務経験をいかし、教育臨床での問題について、子ども、家庭、学校環境および支援環境の多面的観点から読み解きます。授業では、蓄積された事例を活用し、実践的な問題理解と解決方法を学びます。

■到達目標

- 1) 教育現場において生じる問題を説明できる。
- 2) 教育現場において生じる問題の背景を説明できる。
- 3) 学校適応条件を説明できる
- 4) 学校不適応の子ども支援の方法を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%+スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】

中村恵子編著『学校カウンセリング—問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション 第3版』ナカニシヤ出版、2021年

（最近の教科書変更時期）2021年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

中村恵子著『シリーズ学校心理学プラクティス 1 別室登校法：学校と適応指導教室での不登校支援と集団社会化療法』ナカニシヤ出版、2022年

中村恵子著『シリーズ学校心理学プラクティス 2 認知行動療法のストラテジー：行動修正法・行動形成法・認知再構成法・おまじない法』ナカニシヤ出版、2023年

スクーリング

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|--------------------|---------------------|
| 1 | 教育現場において生じる問題とその背景 | 不登校の増加と長期化およびその課題 |
| 2 | 集団社会化と学校適応 | 集団社会化理論と集団適応のプロセス |
| 3 | 教育臨床に有効な集団支援技法 | 対人関係ゲームの理論と演習 |
| 4 | 学校適応に求められる要因 | 学校適応の条件 |
| 5 | 発達障害の理解と課題 | 知的水準、自閉スペクトラム症、ADHD |
| 6 | 学校不適応の理解 | 不登校事例の問題分析 |
| 7 | 学校不適応への支援方法 | 不登校事例の介入計画 |
| 8 | 質疑応答 | |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

- ・パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。
- ・授業では事例を提示し、グループでのディスカッションを中心に読み解きます。

■スクーリング 評価基準

- ・授業への参加態度 30%+スクーリング試験 70% (論述式)
- ・とくに学校適応条件についての理解を問います (教科書・配付資料持込可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

教科書の1章～3章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|------------------------|---------------------------------------|-----------------------|
| 1 | 学校カウンセリングの役割 | p.1～3 学校カウンセリングの目的は子どもの学校適応上の問題解決にある | 個別支援と集団支援の両方が求められる |
| 2 | チームでの協働支援 | p.3～6 チームで解決をはかる児童生徒支援システム | 共通理解が必要な専門用語を学ぶ |
| 3 | 教師とスクールカウンセラーのコラボレーション | p.6～10 集団支援の専門家＝教師 個別支援の専門家＝カウンセラー | 教師とスクールカウンセラーの専門性を生かす |
| 4 | 校内支援体制と教育コラボレーション | p.10～13 児童生徒支援システム | システム理論 |
| 5 | 教育コラボレーションによる再登校支援(1) | p.13～18 チーム支援の実際 | 保護者・生徒・集団へのチーム支援 |
| 6 | 学校適応の条件 | p.37～38 学校生活を支える適応条件 | 学校環境と家庭環境 |
| 7 | 学校適応のための発達課題 | p.38～42 学齢期までの発達課題 | 対人関係の発達 |
| 8 | 価値のトライアングルと学校適応 | p.42～43 価値観のバランス | 価値観の偏り |
| 9 | 学校環境への適応システム | p.43～47 学校環境と家庭環境のはざままでバランスをとろうとする子ども | 個人と環境の相互影響 |
| 10 | 学校環境と問題解決システム | p.47～51 不登校生徒への再登校支援 | 学校適応条件 |
| 11 | 学校不適応をつくる問題システム | p.51～52 問題システムの構成要因 | 子ども・学校環境・家庭環境の相互影響 |
| 12 | 問題解決フォーミュレーション | p.52～63 学校環境と家庭環境それぞれのフォーミュレーション | 当事者支援と支援者支援 |
| 13 | 教育コラボレーションの意義 | p.65～66 コラボレーションの極意 | 教育コラボレーション |
| 14 | 教育コラボレーションによる再登校支援(2) | p.67～71 チーム支援の実際 | 保護者・生徒・集団へのチーム支援 |
| 15 | 教育コラボレーションの役割と効果 | p.71～72 チーム支援の条件 | チーム支援の役割 |

■レポート課題

| | |
|-------|---|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 教科書p.13～18の「級友から孤立して不登校に陥ったAさん」の事例から、チーム支援に必要な条件を論じなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

書き方について

レポートは、以下の順序で最初に結論を述べてください。

- 1) 結論 チーム支援に必要な条件として以下のことがあげられる(箇条書き)
 - 2) 本論 箇条書き条件の説明
 - 3) 総括 これらの条件を用いることの意義と効果
 - 4) 事例についての感想
- 1)～3)までが小論文形式のレポートの書き方です。

- 1) 論文の価値は、論点の正確さと論理の明瞭さにおかれます。まずは最初に結論をコンパクトにまとめましょう。
- 2) 次に、本文では、その条件とはどのような内容なのか、なぜそれが必要と考えたのか、そこにはどのような意味があるのかを説明してください。また、もしそれを用いなかった場合は、どのようなことになるのか、用いた場合はどのような効果が期待できるのかを説明し、論拠を示してください。この内容の豊かさが論文の質的価値をつくります。
- 3) そして、最後に意味と役割について説明して総括してください。
- 4) レポート本文では、自分の考えや感想(主観)を排除して、テキストの事例以外の章を引用しながら客観的に書いてください。感想は、逆に自分の考えや感想や体験を自由に語ってください。このコントラストが大切です。

レポートを書こうとしてもやる気がわかないとき

空腹のときは、脳に栄養がいきわたらないせいかやる気が起きません。しかし、逆に満腹のときもなぜかやる気が起きません。それでも、脳に栄養を与えるとやる気がわくような気になることも稀にあります。筆者の経験では、チョコレートはないとやる気がわきません。芋けんぴとナッツ類も有効です。それに睡魔との闘いになるので、コーヒーも不可欠です。そして、ここまでやったら寝ても良いというゴールの設定もないとイヤになるので、ゴールまでできたら苦悶の心身をアルコールで潤し、よく寝て明日の苦戦に備えましょう。

皆様の善戦を心からお祈りしております。

| |
|--------|
| 科目修了試験 |
|--------|

■評価基準

- ・評価の観点は、理解の正確さです。
- ・教科書や解説文を良く読んで対策してください。

| | | | |
|----------|-----|---------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 司法・犯罪心理学 | | 半澤 利一 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| FF3551 | 2 | SR (講義) | 2年以上 |



※2018年度に「犯罪非行心理学」（科目コード：FF3524）から科目名が変更されました。これから学習される場合は、本科目を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

司法・犯罪心理学（「犯罪非行心理学」から科目名変更）は応用心理学の一領域です。ドラマや映画で描かれるような「犯罪プロファイリング」も捜査心理学という犯罪心理学の一分野の方法ですが、基本的には、なぜ人は犯罪をするのか、どのようにすれば犯罪をくり返さないようになるのか、そして犯罪の発生を減らし、犯罪に遭わないようにするためには何が必要なのかを現実的に考えるために、近接した学問領域の知見を援用して統合的に考察する学問であると言えます。「犯罪」と「非行」という使い分けは、成人による犯罪と未成年者の非行について法律で異なった扱いをすることや、発達段階の違いから、反社会的行動の性質や立ち直りに影響する要因などさまざまに異なる側面があることを意味します。また、犯罪と非行は刑事司法が司りますが、この科目ではさらに民事司法の中で、離婚や子どもの親権をめぐる争いなど家庭内紛争の理解と融和を目指す、家庭裁判所における家事事件の扱いを学びます。

【教員等の実務経験による指導内容】

長年、家庭裁判所調査官として非行少年の調査や家庭内紛争の調整に取り組んだ経験を生かし、犯罪・非行とは何か、どう理解して処遇して行くのかを実務家の視点で解説し、犯罪・非行の時代的推移や現代型非行の特徴、捜査や裁判、処遇を担う機関の機能や連携、被害者心理、さらには家庭内紛争についての理解を深めさせる。

■到達目標

- 1) 犯罪や非行という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。
- 2) 再犯を抑制して社会適応を促すさまざまな処遇方法を述べることができる。
- 3) 離婚や子をめぐり争いなどの家庭内紛争について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」「実証的分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%+スクーリング評価 50%

■教科書・参考図書

【教科書】

河野荘子・岡本英夫 編著『コンパクト司法・犯罪心理学―初歩から卒論・修論作成のヒントまで―』北大路書房、2020年

(最近の教科書変更時期) 2021 年 4 月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

【参考図書】

1) 司法・犯罪心理学概論

細江達郎著 『図解雑学 犯罪心理学』 ナツメ社、2001 年 (図解入りで分かりやすい。初心者向け。)

原田隆之著 『入門 犯罪心理学』 (ちくま新書) 筑摩書房、2015 年 (包括的な内容がコンパクトにまとめられており読みやすい。)

大淵憲一著 『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』 (心理学の世界 専門編) 培風館、2006 年 (さまざまな概念や理論について広く詳しく紹介されているが、やや難解で読み応えがある。)

廣井亮一著 『司法臨床入門 (第 2 版): 家裁調査官のアプローチ』 日本評論社、2012 年

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著 『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学 (改訂版)』 八千代出版、2019 年

2) 司法・犯罪心理学各論

越智啓太著 『Progress & Application 犯罪心理学』 サイエンス社、2012 年 (捜査心理学、防犯心理学、犯罪種別ごとの心理などが紹介されている。)

生島浩・村松励編著 『非行臨床の実践』 金剛出版、1998 年 (非行臨床についての実務家のノウハウが満載。)

生島浩著 『悩みを抱えられない少年たち』 日本評論社、1999 年 (非行少年の心理について洞察が鋭い。)

藤岡淳子著 『非行少年の加害と被害—非行心理臨床の現場から』、2001 年 (非行臨床についての考察が深い。)

小西聖子著 『犯罪被害者の心の傷』 白水社、2006 年 (被害者の理解と支援についての名著。)

廣井亮一編 『家裁調査官が見た現代の非行と家族～司法臨床の現場から』 創元社、2015 年

■参考サイト

①「令和 5 年版犯罪白書」の第 3 編/第 1 章/第 1 節/1

「令和 5 年版犯罪白書」と検索するか、次の URL から全文の PDF がダウンロードできます。

https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00127.html

114 ページ以降を参照してください。

その他、公的機関による犯罪関連の統計には「矯正統計」「少年矯正統計」「保護統計」「警察白書」などがあります。また、青少年をめぐる問題について「子供・若者白書」なども参照できます。

②YouTube「MOJ channel (法務省チャンネル)」心のリレー・第 2 部『保護観察官の仕事』

<https://www.youtube.com/watch?v=tizdroA7rW8>

③YouTube「MOJ channel (法務省チャンネル)」更生保護紹介動画「更生保護～立ち直りを支える地域のチカラ～」

<https://www.youtube.com/watch?v=3LihVMdoOzQ>

④「犯罪被害者の方々へ」(「法務省」HP>「法務省の概要」>「組織案内」>「特別の機関」)

https://www.moj.go.jp/keiji1/keiji_keiji11.html

⑤全国の被害者支援センター 電話番号・開設時間一覧 (「公益社団法人全国被害者支援ネットワーク」HP から)

https://www.nnvs.org/support_center/

※「公益社団法人みやぎ被害者支援センター」

<https://www.miyagivsc.jp>

スクーリング

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|--------------|------------------------|
| 1 | 犯罪心理学とは何か | 犯罪をどう捉えるか、少年非行の動向とその原因 |
| 2 | 犯罪の原因と法 | 犯罪社会学と法律学における捉え方 |
| 3 | 非行臨床について | 少年事件の審理、司法的機能と福祉・教育的機能 |
| 4 | 施設内処遇と社会内処遇 | 保護観察や少年院について |
| 5 | 非行少年と家族を理解する | 非行少年の心性と家族の特徴 |
| 6 | 家事事件とは何か | 家庭内紛争の理解と対応 |
| 7 | 被害者の心理と支援 | トラウマティック・ストレスとその対応 |
| 8 | まとめと質疑応答 | |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に板書をしながら講義を進めます。教科書や参考図書『現代と未来をつなぐ実践の見地からの心理学（改訂版）』『司法臨床入門（第2版）：家裁調査官のアプローチ』および動画教材も参考程度に利用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験 100%（教科書・配付資料・ノート可）。

試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の2章・4章・5章を復習し、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|----------------------|---|---|
| 1 | 犯罪心理学とは ①（第1章第1節） | 犯罪非行心理学の研究対象は「犯罪」と「非行」であり、それぞれをどう定義して考える学問なのか、またどういう研究領域があるのかを理解する。 | 犯罪心理学とは何をどのように研究して行くのかを理解します。特殊な事件を解明するスリリングな活動ではなく、事実や現象についてデータを元にして分析し、法律学や社会学などの知見をも参照して、改善策を考える学問であることが分かります。 |

| | | | |
|---|----------------------------------|--|--|
| 2 | 犯罪心理学とは②（第1章第2節） | 犯罪心理学のさまざまな調査法の一つに犯罪データを利用する方法がある。教科書では限定的な意味での「犯罪データ」（公的記録）について説明されるが、国の機関が毎年発表する「白書」はインターネット上での閲覧も可能である。実際の犯罪データを見てその読み方を体験する。 | 一般の立場で犯罪者や非行少年を直接研究対象とすることはできませんが、公表されている「犯罪統計」を使えば、その推移や動向などが分かります。ここでは、インターネットで閲覧できる「令和元年版犯罪白書」（参考サイト①）の「少年による刑法犯・1 検挙人員」を利用します。参考図書などを手がかりに、その変動の原因を探ってみましょう。 |
| 3 | 犯罪の原因①（第2章第1節、第2節） | 犯罪の原因を解明する理論を学ぶ。社会的要因と生物的要因のレベルで犯罪の形成を見る。 | 自分の体験や過去の事件報道についての知識を手がかりに、個人を取り巻く社会が反社会的行動の形成にどう影響するかについて考えましょう。また生物学的要因は、教科書に記載されているものの他、先天的な心身の特徴や障害、疾患が影響することもあります。参考文献などで調べてみましょう。 |
| 4 | 犯罪の原因②（第2章第3節） | セルフコントロール、敵意帰属バイアスなどが心理的要因であることを知る。 | 狭義の犯罪心理学の中心的なテーマで、犯罪者や非行少年のパーソナリティ特性を知る部分です。それぞれが犯罪に至った要因は様々でも、ある程度共通する特性や傾向が窺えることもあります。参考文献などを手がかりにして、他にどんな心理的要因があるかを調べましょう。 |
| 5 | 犯罪の原因③（第2章第4節） | 犯罪や非行の形成には、家庭環境や学校適応、友人関係などが関わることを理解する。 | 性格形成や生活態度に大きな影響を与える、一番身近な社会的要因を捉えます。いずれも犯罪や非行の一因となると同時に、更生に向かう時にも影響を及ぼします。 |
| 6 | 犯罪の捜査①（第3章第1節） | 社会的な視点で犯罪を見いだすプロファイリングには、FBI方式、リバプール方式、地理的プロファイリングなどの手法があることを理解する。 | 犯罪捜査に寄与する心理学的な方法を学びます。犯行の痕跡から、いかに犯罪者を効率的・効果的に探り当てるかを心理学的に捉えます。 |
| 7 | 犯罪の捜査②（第3章第2節、第3節） | 虚偽検出や目撃証言の吟味は、犯罪を構成する事実を個人から見出すことであることを理解する。 | 捜査段階では、犯罪者の生理的反応や言語的反応をどう捉え、どう扱うのかを理解しましょう。 |
| 8 | 非行少年の心理・社会的アセスメント①（第3章第4節） | 少年鑑別所は、非行少年の資質鑑別（資質面の精査）を行う専門機関であり、法務技官（矯正心理職）が主に面接や心理検査を行い、法務教官が観護しながら行動観察を行うことを理解する。 | 少年鑑別所は、家庭裁判所が受理した少年事件の審理中に少年を収容して心身の鑑別（収容審判鑑別）をする機関です。ここでは資質鑑別と呼ばれる、専門的な心理アセスメントについて、その視点や方法を学びましょう。また、非行少年の心理特性についても具体的に理解し、それらがどう非行につながるのかを考えてみましょう。 |
| 9 | 非行少年の心理・社会的アセスメント②（Column 1、3、4） | ・社会的アセスメント②（Column 1、3、4） 発達障害は非行の主因ではないが、発達障害を抱えた子どもへの周囲の不適切な関わりが非行を生み出すと言っても過言ではない。非行化の社会的要因について考えたい。 | 非行少年の審理においては、複数の専門職が関与します。少年鑑別所の法務技官が詳しい心理アセスメントを行い、家庭裁判所調査官が心理的な形成要因に関わる社会的な要因を捉えます。専門職の仕事を通して非行の心理・社会的要因をよく考えてみましょう。 |

| | | | |
|----|---------------------------------------|---|--|
| 10 | 犯罪からの立ち直り① (第4章第1節1.~4.第2節1.) | 「立ち直り」とはどのような状態を指すのか、何が必要で、どうしたら良いのか、周囲は何をしたら良いのかを考える。 | 前項で学んだ心理アセスメントは、それのみで終結するのではなく、立ち直りを援助するための情報として活用されます。立ち直りの考え方や方法について、過去の研究や理論から探りましょう。 |
| 11 | 犯罪からの立ち直り② (第4章第2節2.) | 非行・犯罪臨床の特徴の一つである施設内処遇について学ぶ。他の臨床領域では見られない、強制力を伴う、長い期間身柄を拘束する処遇となるが、ここでさまざまな教育プログラムや方法を執ることで、非行性や犯罪性の進んだ人々には有効な処遇となることを知る。 | 成人向けの刑事施設や非行少年を収容する少年院は、刑事裁判中に被疑者を収容する拘留所や家裁の審理中に少年を収容する少年鑑別所とは異なる、処遇の専門機関です。ここでどのような処遇が行われるのか、具体的に学びましょう。 |
| 12 | 犯罪からの立ち直り③ (第4章第2節3.Column5、6、7、8) | 非行・犯罪臨床においては、アセスメントや処遇が一つの機関で完結することはない。施設での処遇が行われた後も、社会内処遇(対象者を住居に住ませ、学校や職場に復帰させて指導をすること。)が続くが、その中心となるのが保護観察所の行う保護観察である。 | 保護観察官は具体的にどのような仕事をしているのか、また地域はどのように支援できるのかをYouTubeの「法務省チャンネル」の紹介ビデオ(参考サイト②、③)から学んでください。併せて、テキストのColumnから少年鑑別所の地域援助活動や児童相談所の業務における非行・犯罪予防や再犯防止に向けた活動の意義を考えます。 |
| 13 | 被害者の心理① (第5章第1節1.~2.) | 2005年に「犯罪被害者等基本法」が施行された。犯罪者に対する刑事手続の中での被害者への対応や支援の詳しくは参考サイト④を参照する。教科書には被害者が事件直後に呈する特徴的な心理状態や深刻化した状態などについて解説されているが、それがどのようなものなのかを理解する。 | 事件や事故が毎日のように報道されますが、その陰には痛ましい心を抱えた被害者やその家族がいます。取り返しのつかない事態に遭った被害者や遺族は特別な心理状態からなかなか回復できないものです。その心理を理解し、支援の基本を学びましょう。 |
| 14 | 被害者の心理② (第5章第1節3.~5.) | 被害者の心理的ケアの基本は「まずは被害者に寄り添うこと」に尽きる。他に薬物療法や長時間曝露療法について紹介されているが、被害者は過敏な状態にあるのであくまで基本を守る。被害者の心理と支援について参考図書などから詳しく理解する。 | 各都道府県に開設されている「被害者支援センター」は参考サイト⑤で一覧できます。センターが他にどのような業務を行うのかも調べましょう。また「全国被害者支援ネットワーク」のホームページでは、被害者支援の歴史やさまざまな関係機関による取り組みが紹介されていますので参考にしましょう。 |
| 15 | 防犯について (第5章第2節) | 環境犯罪学の主な理論である、割れ窓理論、犯罪パターン理論を理解し、防犯意識を高める。 | 犯罪者の行動傾向や犯罪を誘発しやすい状況などについて知ることで、防犯対策についての知識を得ましょう。 |

■レポート課題

| | |
|-------|--|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 非行少年とされる未成年者はどのような性質を持った若者なのかについてまとめ、また再び非行や犯罪を起こすことなく正業に就いて自活させるために、周囲はどのような働きかけをすれば良いのかについてあなたの考えを述べなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

さまざまな角度から非行を捉え直して考えるためには、まず課題を読み解くための手がかりとなる理論や概念を教科書などから探しましょう。それを読み込んであなたの言葉に翻訳して枠組みを自分のものとし、自分なりに情報を整理して自分の言葉で表現してください。

参考図書やホームページなどを積極的に参照することを推奨しますが、それらを丸写ししたり、コピー＆ペーストした情報の切り貼りでは学習効果は望めません。理解した内容をあくまで自分の言葉で論理的に構成するように心がけてください。

一般に、非行少年には反抗的な態度や感情統制の悪さ、気まぐれで継続性のない態度などが認められることから、周囲が偏見を強めたり対人的な距離を置いたりします。本人なりに、まじめにやろう、周囲の人々とうまくやっていると実は思っている、なかなかうまくいかない「生きづらさ」を抱えているものです。そういう本人のつらさや努力を、偏りのないまなざしで肯定的に見守るのが非行臨床の第一歩と言えるでしょう。どんな人間でも、自分を理解してくれて温かい言葉を掛けてくれる人には敵意を向けません。しかし、対人的な不信感や劣等感が強い人間はなかなか心を開こうとせず、不信の目や怒りを向けてくるかも知れません。それを受け止めながら、なおも肯定的な関心を向け続け、問いかけます。そして、生きづらさを抱え続けた結果である反社会的行動に至った本人なりの道筋を聴いていくことが大切です。そこから非行少年の理解が始まるのです。教科書に書かれた非行少年の性格的な特徴やそれと関わる社会的要因（家庭環境、交友関係、学校等）の特徴などを手がかりにして、自分なりにモデルケースを想定し、更生のための社会的な支援のポイントなども含めてまとめてください。

| | | | |
|----------|-----|------------|------|
| 科目名 | | 担当教員 | |
| 神経・生理心理学 | | 重宗 弥生 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| FJ3562 | 2 | RorSR (講義) | 2年以上 |



※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

私達の日常生活は脳内で行われる知覚・注意・言語・記憶・運動など、様々な認知機能の処理により支えられています。神経心理学は、脳が損傷された場合に起こる知覚や行動の障害をもとに、障害された認知機能のメカニズムや対応する脳領域を明らかにする学問であり、生理心理学は、知覚や行動に伴う発汗や心拍数の増加などの生理学的な現象をもとに、認知機能のメカニズムを検討する学問です。

本講義では、脳の生理学的・解剖学的な構造と、生理学的な反応の測定方法を理解した上で、スライドやビデオ映像による症例の紹介、心理検査の実施、コメントシート・レポートの提出を通して、脳の損傷によって起こる障害と認知機能の処理メカニズムについて理解してもらいます。

【教員の実務経験による指導内容】

東京都立駒込病院の脳神経外科にて、脳・脊椎に腫瘍を発症した患者の術前・術後検査と覚醒下手術に、心理検査を行うアシスタント職として立ち会ってきた経験を生かし、脳の損傷によってみられる症状やそれらの検査法を紹介します。

■到達目標

- 1) 脳の生理学的・解剖学的な構造を理解する(脳神経系の構造及び機能の理解)
- 2) 脳を基盤とする認知機能の機序を理解する(記憶、感情等の生理学的反応の機序の理解)
- 3) 脳領域の損傷や疾患によってみられる障害を理解する(高次脳機能障害の概要の理解)

■学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 30%+スクーリング評価 or 科目修了試験 70%

■教科書・参考図書

【教科書】

石合純夫著『高次脳機能障害学 第3版』医歯薬出版、2022年

(最近の教科書変更時期) 2022年4月

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって教科書は使用しません。

【参考図書】

- 1) 山鳥重著『神経心理学入門』医学書院、1985年

- 2) 山鳥重著『記憶の神経心理学』医学書院、2002年
- 3) 緑川晶/山口加代子/三村将編『臨床神経心理学』医歯薬出版、2018年
- 4) マーク・F・ベアーズ、他著『神経科学—脳の探求— 改訂版』西村書店、2021年
- 5) フロイド・E・ブルーム著『新・脳の探検(上)』講談社、2004年

■事前に学習してほしい科目

本講義では脳の生理学的・解剖学的構造と、その損傷によって起こる高次機能障害に焦点をあて講義を行うため、事前に知覚・認知心理学や心理学概論で扱われる健全な知覚・認知の情報処理や心理現象について学んでおくことにより、一層理解を深めることができます。

2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「知覚・認知心理学」

2017年度以前入学者：「心理学概論」「認知心理学 or 知覚・認知心理学」

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに、下記の科目の単位を取得していること。

2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「発達心理学」「知覚・認知心理学」

2017年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」「生涯発達心理学」「認知心理学 or 知覚・認知心理学」

※2017年度以前入学者で「認知心理学」を単位修得していない方は、「知覚・認知心理学」を履修登録のうえ単位修得してください。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|----|------------------|--|
| 1 | 神経・生理心理学の位置付けと方法 | 神経・生理心理学とはどのような学問なのか、どのような研究手法があるのかを学びます。 |
| 2 | 脳神経の生理学的・解剖学的構造 | 基盤となる脳と神経の生理学的な機能と解剖学的な構造について学びます。 |
| 3 | 視覚・聴覚の障害(1) | 何を「見る」かの処理機構とその障害について学びます。 |
| 4 | 視覚・聴覚の障害(2) | どこを「見る」かの処理機構と、「聞く」こと全般の処理機構とその障害について学びます。 |
| 5 | 言語の障害(1) | 言語を「話す」、「聞く」ことの処理機構とその障害について学びます。 |
| 6 | 言語の障害(2) | 言語を「書く」、「読む」ことの処理機構とその障害について学びます。 |
| 7 | 記憶の障害(1) | 出来事を「憶える」、「思い出す」ことの処理機構とその障害について学びます。 |
| 8 | 記憶の障害(2) | 知識や技術を「憶える」、「思い出す」ことの処理機構とその障害について学びます。 |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

スライドと配付資料を中心に講義を行います。講義中に小テスト・コメントシートのフィードバックを行います。

■スクーリング 評価基準

スライド・講義資料で説明した内容から出題します。講義資料と手書きのノートは持ち込み可とします。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「高等学校生物／生物Ⅰ」の「環境と動物の反応」の神経に関連する項目に該当する内容を振り返り、神経細胞の構造と信号伝達について復習しておいてください。また、教科書の第一章の「B 画像診断のポイント」を読み、脳の解剖学的な構造と名称を把握しておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

本講義では、脳の領域名や症状名など専門的な用語を覚え、様々な認知機能の機序について理解する必要があります。そのため、それらの情報処理の流れを理解できているか確認を行い、自分の知識として取り出すことができるよう、復習を行ってください。

レポート学習

■在宅学習 15のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|----|-------------------------------------|------------------------------------|---|
| 1 | 神経・生理心理学概論 (教科書 第1章Ⅰ) | 神経・生理心理学とはどのような学問なのかを学びます。 | 高次機能障害の定義について理解し、脳の側性や機能局在が高次機能障害にどのように関係するか説明できるようにしましょう。 |
| 2 | 脳神経の解剖学的構造 (教科書 第1章Ⅱ) | 基盤となる脳と神経の解剖学的な構造について学びます。 | 脳の立体的な構造を理解し、主要な溝・回・領域・脳室の名称を言えるようにしましょう。 |
| 3 | 失語 (教科書 第2章Ⅰ) | 言語を「話す」、「聞く」ことの障害と、それらの機序について学びます。 | ブローカ失語・ウェルニッケ失語を始め、どのような失語があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。 |
| 4 | 失書・失読 (教科書 第2章Ⅱ) | 言語を「書く」、「読む」ことの障害と、それらの機序について学びます。 | どのような失読と失書があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。 |
| 5 | 失行 (教科書 第3章Ⅰ・Ⅱ) | 身体を「動かす」ことの障害と、その機序について学びます。 | どのような失行があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。 |
| 6 | 行動の抑制と開始・出力・維持の障害 (教科書 第3章Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ) | 身体を「動かさない」ことの障害と、その機序について学びます。 | 行動を抑制・開始・出力・維持できないとはどういうことかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。 |
| 7 | 視覚失認 (教科書 第4章Ⅰ) | 何かを「見る」ことの障害と、その機序について学びます。 | どのような視覚失認があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。 |

| | | | |
|----|------------------------------------|---|--|
| 8 | 聴覚・触覚失認と陽性症状 (教科書 第4章Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) | 何かを「聴く」・「触る」ことの障害と陽性症状、それらの機序について学びます。 | どのような聴覚・触覚失認があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。また、陽性症状とは何かを説明できるようにしましょう。 |
| 9 | 半側空間無視 (教科書 第5章Ⅰ) | 空間に「注意を向ける」ことの障害と、その機序について学びます。 | どのような半側空間無視があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。 |
| 10 | 片麻痺・身体無視と関連する症候群 (教科書 第5章Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) | 自身の身体に「注意を向ける」ことの障害と関連する症候群、その機序について学びます。 | どのような身体への無視があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。また、関連する症候群について説明できるようにしましょう。 |
| 11 | 注意の障害 (教科書 第6章Ⅰ) | 対象に「注意を向ける」ことの障害と、その機序について学びます。 | 注意障害の脳内機序を理解し、どのように注意の障害を検査するのか説明できるようにしましょう。 |
| 12 | 記憶の障害 (教科書 第6章Ⅱ) | 出来事を「憶える」こと「思い出す」ことの障害と、その機序について学びます。 | どのようなエピソード記憶の障害があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。 |
| 13 | 記憶の障害 (参考図書 2 第3・4章) | 知識・技術を「憶える」こと「思い出す」ことの障害と、その機序について学びます。 | どのような意味記憶・作業記憶の障害があるのかと、それらの障害の脳内機序を説明できるようにしましょう。 |
| 14 | 遂行機能の障害 (教科書 第6章Ⅲ) | 他の処理を「制御する」ことの障害と、その機序について学びます。 | 遂行機能障害の脳内機序を理解し、どのように遂行機能の障害を検査するのか説明できるようにしましょう。 |
| 15 | 認知症・せん妄・外傷性脳損傷 (教科書 第7章) | 認知症・せん妄・外傷性脳損傷でみられる認知機能の障害と関連領域について学びます。 | 認知症とせん妄の違いについて説明でき、それらと外傷性脳損傷でみられる症状と脳領域の関連について説明できるようにしましょう。 |

■レポート課題

| | |
|-------|---|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 次の①・②について記述してください。 ①「流暢性失語」と「非流暢性失語」の症状と脳内機序をもとに、言語の入力から出力までの情報処理について論じてください。 ②患者の前にボールペンと紙を置いて「昨日の晩ご飯のメニューを書いてください」とお願いしましたが、患者は書くことができませんでした。この患者で障害されていると考えられる認知機能を少なくとも2つ挙げ、高次脳機能障害について論じてください。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

在宅学習では高次機能障害の定義と脳の解剖学的な構造について学んでもらった上で、知覚・注意・言語・記憶・運動・遂行機能など、様々な認知機能の障害について12回に分けて学んでもらいます。それぞれの認知機能の障害について個別に学んでもらうこととなりますが、情報処理には入力から出力までの流れがあります。例えば、この文章を読んでいるあなたの頭の中では、「注意」を向けることで視覚的に文字を「知覚」し、「言語」として認識した情報を「記憶」から呼び出し、「遂行機能」により履修するか否か決定する、という情報処理が行われていることでしょう。そのため、個別に学習した認知機能を独立した知識とするのではなく、認知機能同士の関係性を考えることで、脳内での情報処理の全体像を掴むようにしてください。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

レポートは序論、本論、結論の基本的な構造から成り立ちます。「序論」では、「本論」で説明する内容の前提となる大きな枠組みについて説明します。「本論」では、「序論」で説明した前提を更に掘り下げて、結論を導くために必要な根拠について説明していきます。「結論」では、「本論」の根拠の説明をもとに、どのように結論が導かれるのかを説明します。

以上を踏まえると、①については、「非流暢性失語」と「流暢性失語」が本論で用いる根拠となるので、言語の入力から出力までの情報処理について、それらをもとにどのようなことが言えるのか、オリジナリティのある結論を設定する必要があります。②については、本論で用いる根拠を、患者さんの状態から自身で考えて用意する必要があります。その上で、それらをもとに高次脳機能障害についてどのようなことが言えるのか、オリジナリティのある結論を設定する必要があります。

レポートは文章題ではないので、本論に該当する内容を説明して終わりにはなりません。必ず独自の考えにもとづく結論が必要です。また、唐突に本論に該当する内容の説明から始まることはありません。本論につなげるための序論が必要です。レポートを採点するのは教員ですが、課題の内容を知らない人がレポート部分だけを読んだとしても伝わるよう、丁寧な説明を心掛けましょう。

■レポート 評価基準

2 単位めレポート課題の評価基準は以下のとおりです。

- ①それぞれの失語の症状と脳内機序を正しく把握した上で、指定した内容について結論を導くことができるか。
- ②これまでに学んだ高次脳機能障害の症状の中から、状況に対応するものを適切に選択した上で、指定した内容について結論を導くことができるか。

科目修了試験

■評価基準

視覚・聴覚・注意・言語・記憶・運動といった異なる認知機能の障害について理解し、それらの全ての認知機能を含む脳内での情報処理の全体像を構築できているかを評価基準とします。そのため、それぞれの認知機能の障害について学ぶ際に、他の認知機能の障害との対応関係も考えられるよう、教科書の内容をしっかりと把握するようにしてください。